



特別  
79  
4109



子 9  
1109

皇清  
書局



廣  
東  
書  
局

光緒三十三年  
一月三十日  
購求

先々蓬萊散人佐羅紗便覽といへる書を  
 著寸其意詳ありといへるも數品少し一因予  
 書肆松柏堂是を増補せん事を乞ふ今予  
 未々部類茂分ち前編小曳と稱を盡さ案  
 増補華布便覽と題し一急世に流行し  
 寫者汝便と示しぬ

東都金吹丁住家名白子屋久須美孫左工門

更紗便覽之目録

- 一 更紗の品
- 一 書更紗下地は掃の事
- 一 生臘脂とよみの事
- 一 藍緋とよみの事
- 一 雌黄とよみの事
- 一 黒地の事

白く深ぬきよの事

吹給仕揃の事

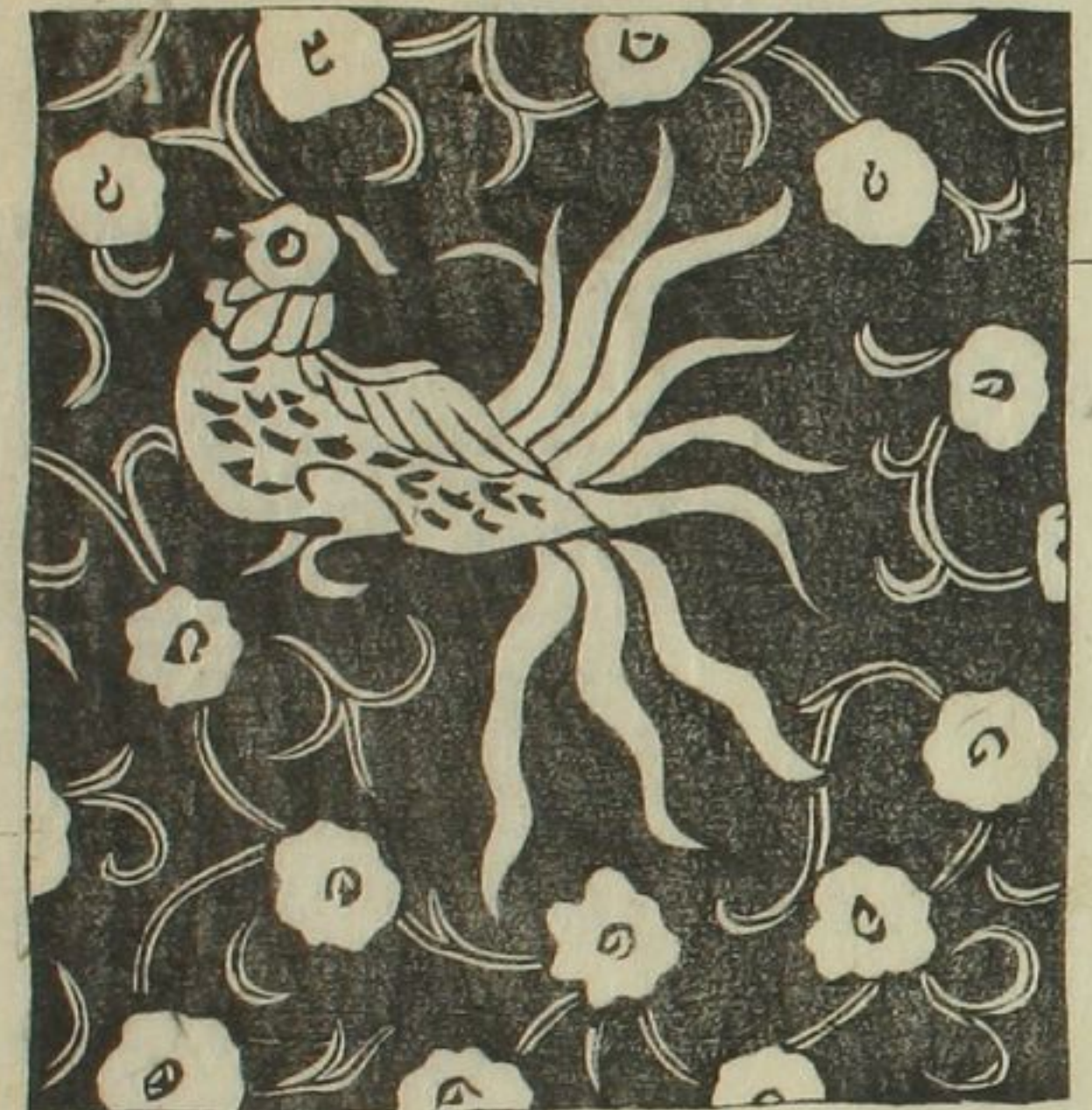
令更紗の事

更紗書様の事

仕上ぬきよの事

古英付よの事

急書板の事

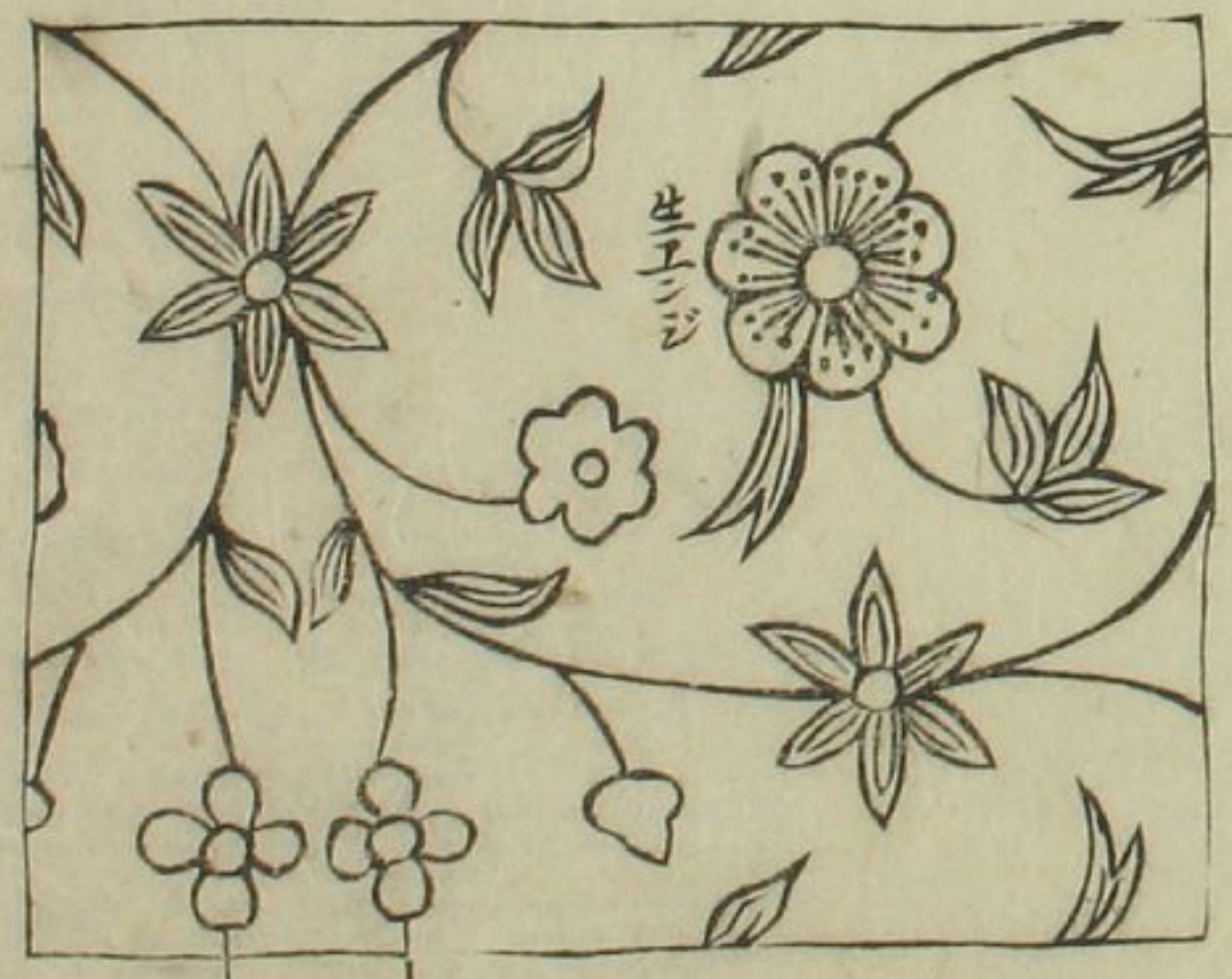


地アキ

ワルキ

鳥尾宗頭ハラ生エシ

花生エシ



華ワルキ

一タイ五金オクヘシ

生エシ

更紗

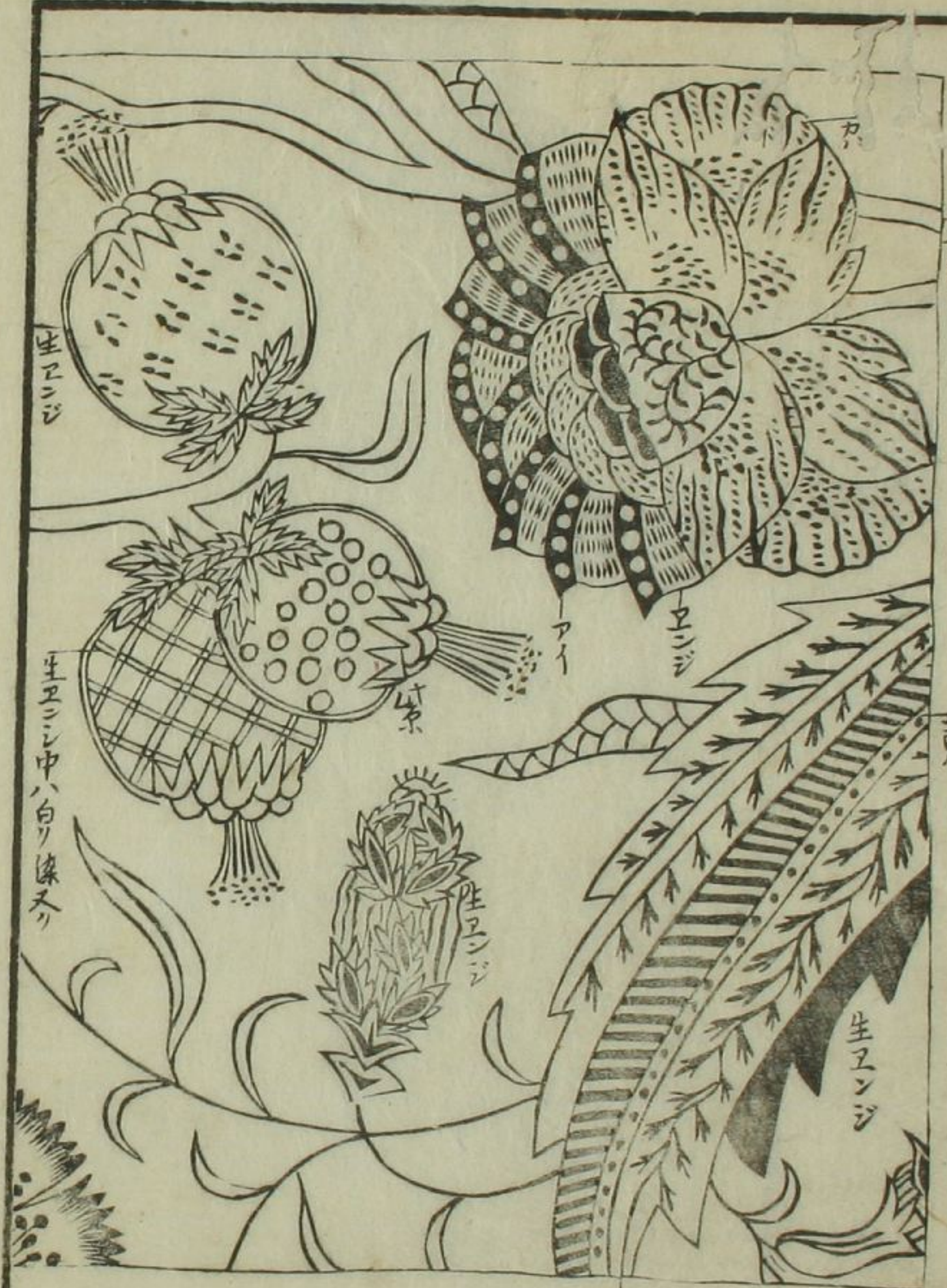
黄



葉ワルノイモエ

黄  
生エシ中濃又キ

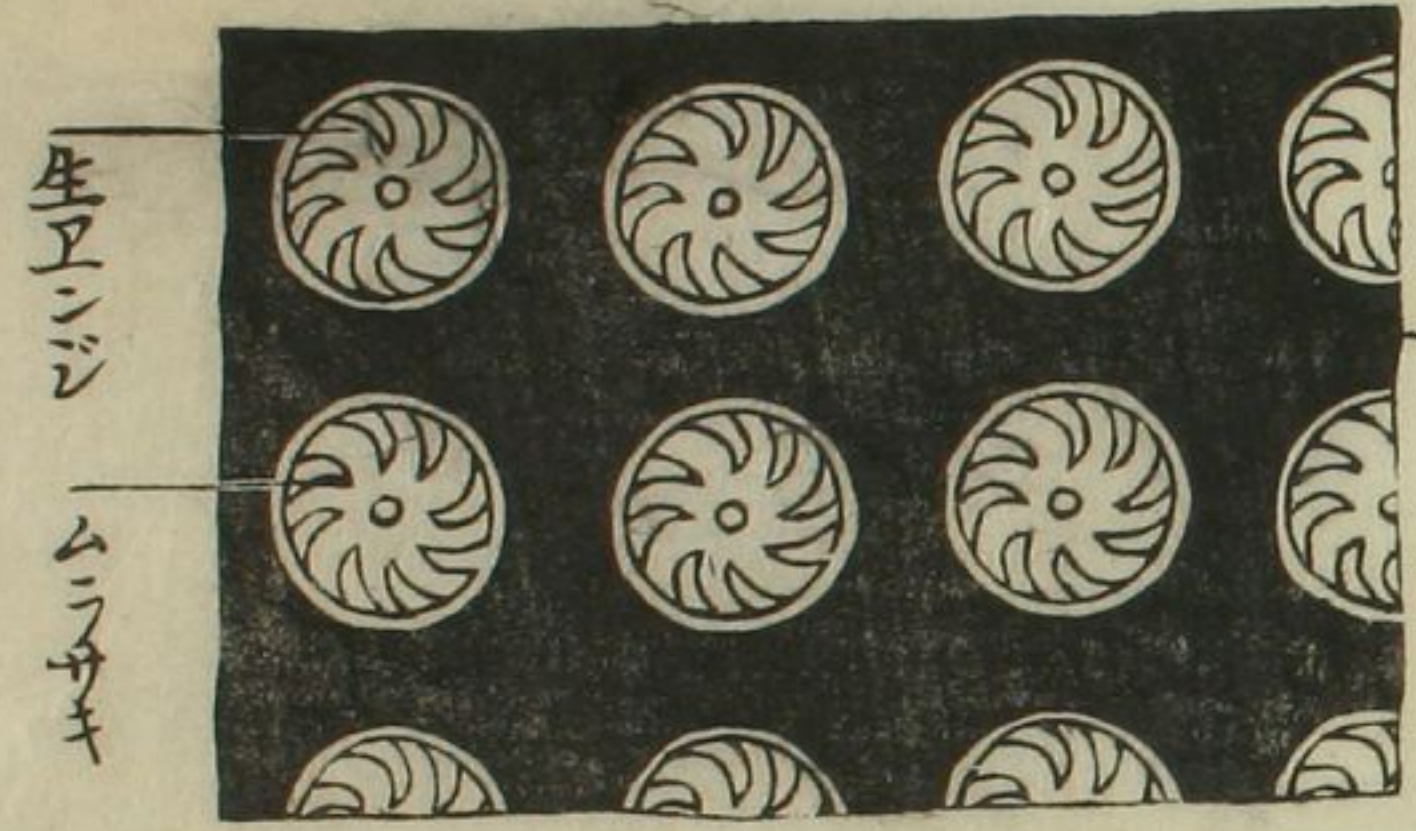
黄



アイニ白ク濃又ク

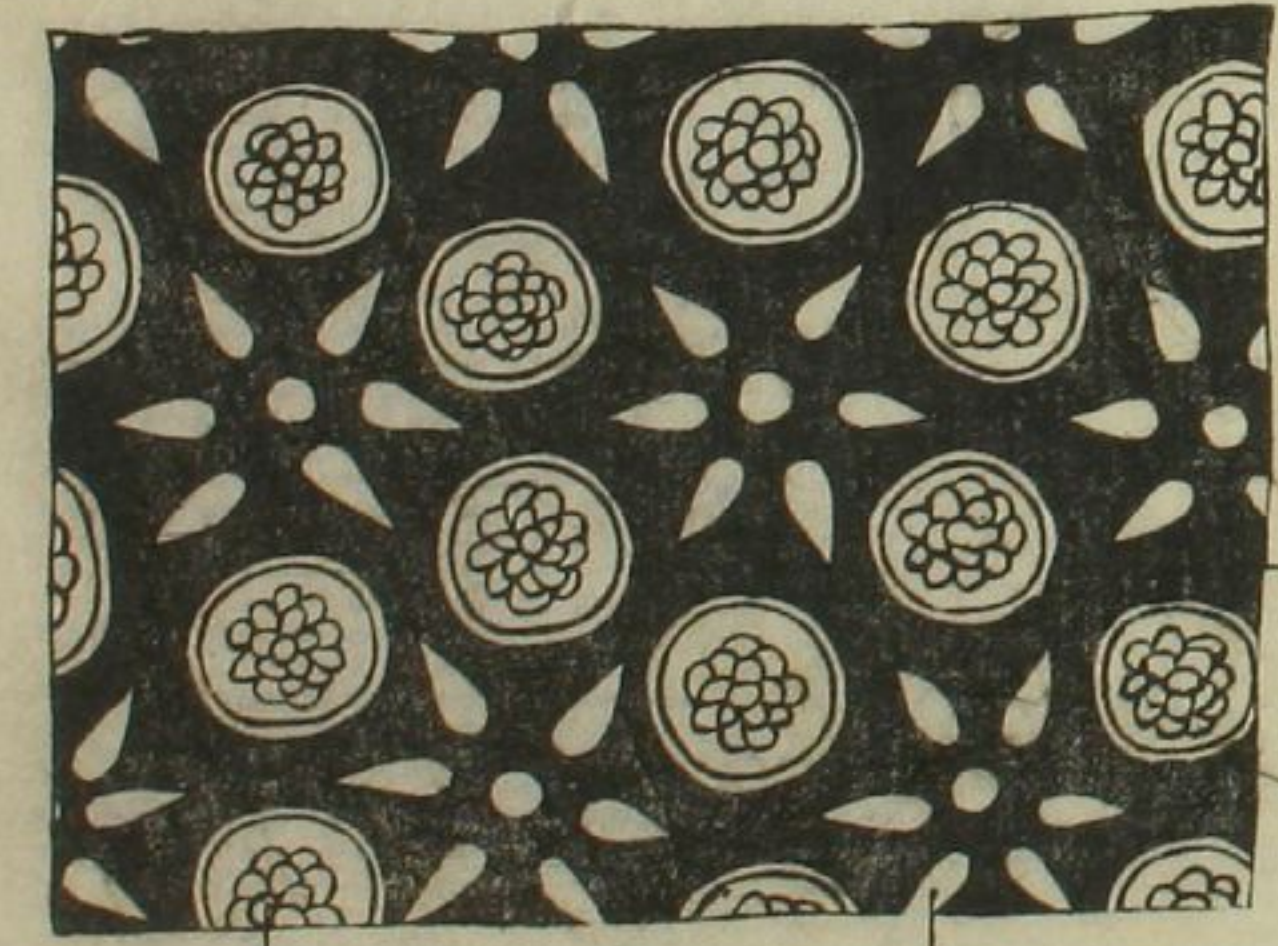
黄

便覧



生エニジ  
ムニサキ

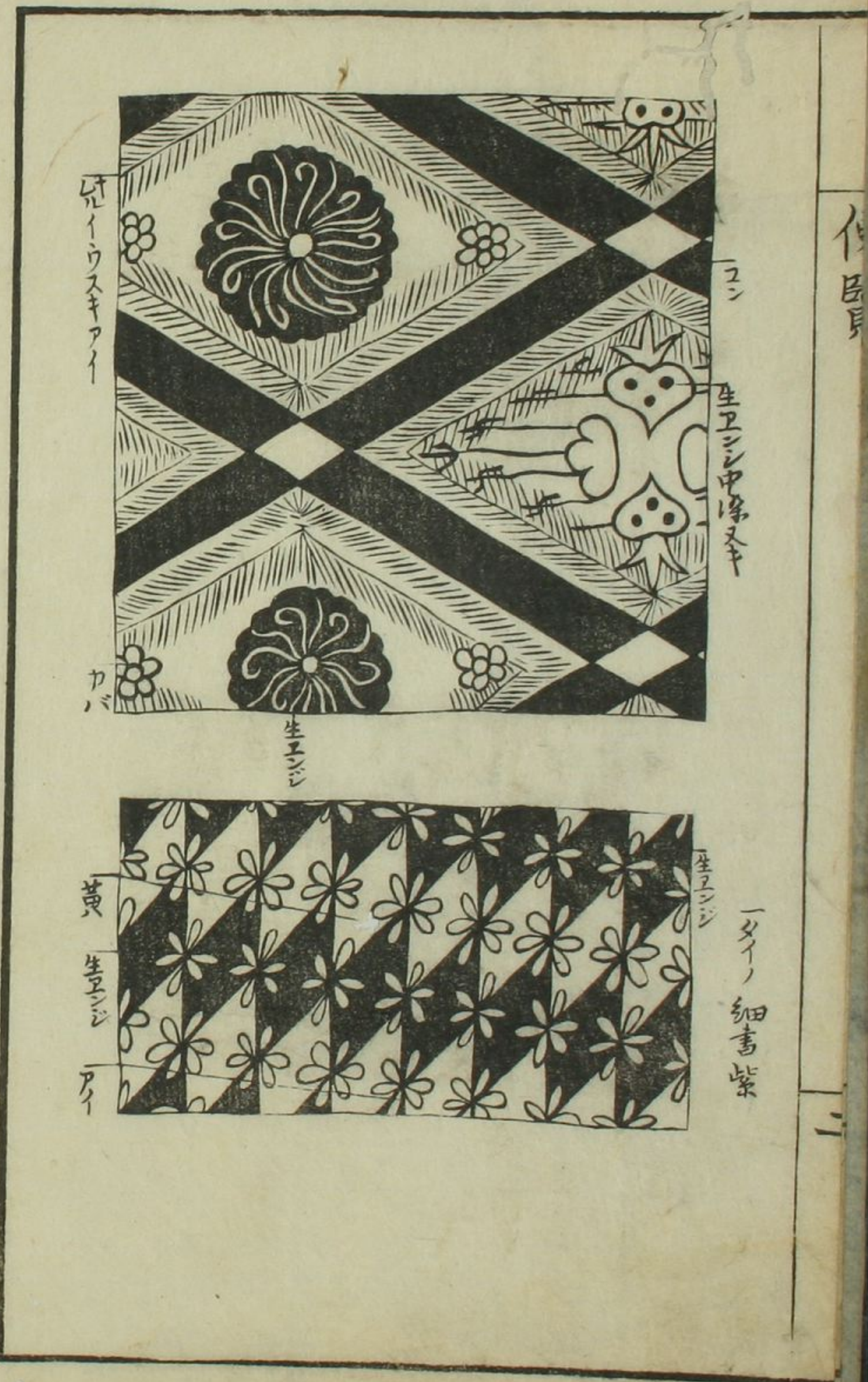
二解ツヤノナキ墨



生エニジ

白ク深メク

一タノコキアイ



カ  
イトウスキアイ

カ  
ミ

生エニジ

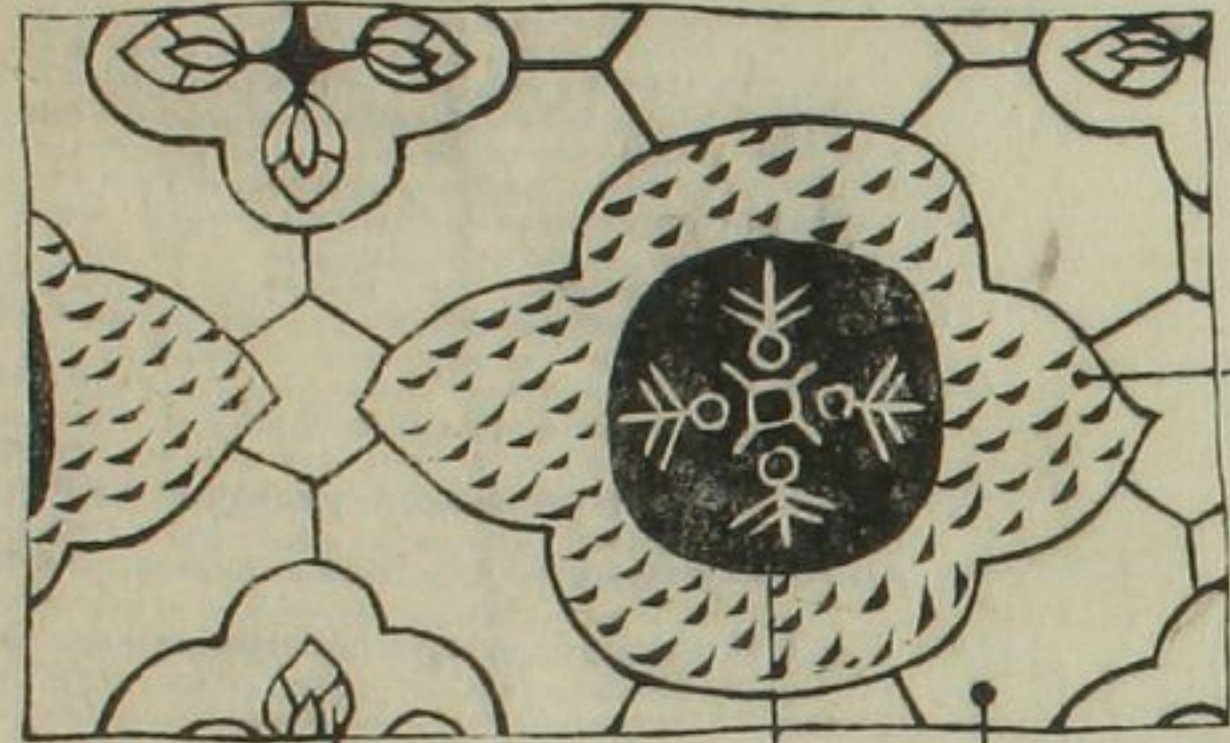
黄  
生エニジ  
アイ

コシ  
生エニジ中深メク

生エニジ

一タノ細書紫

便覧

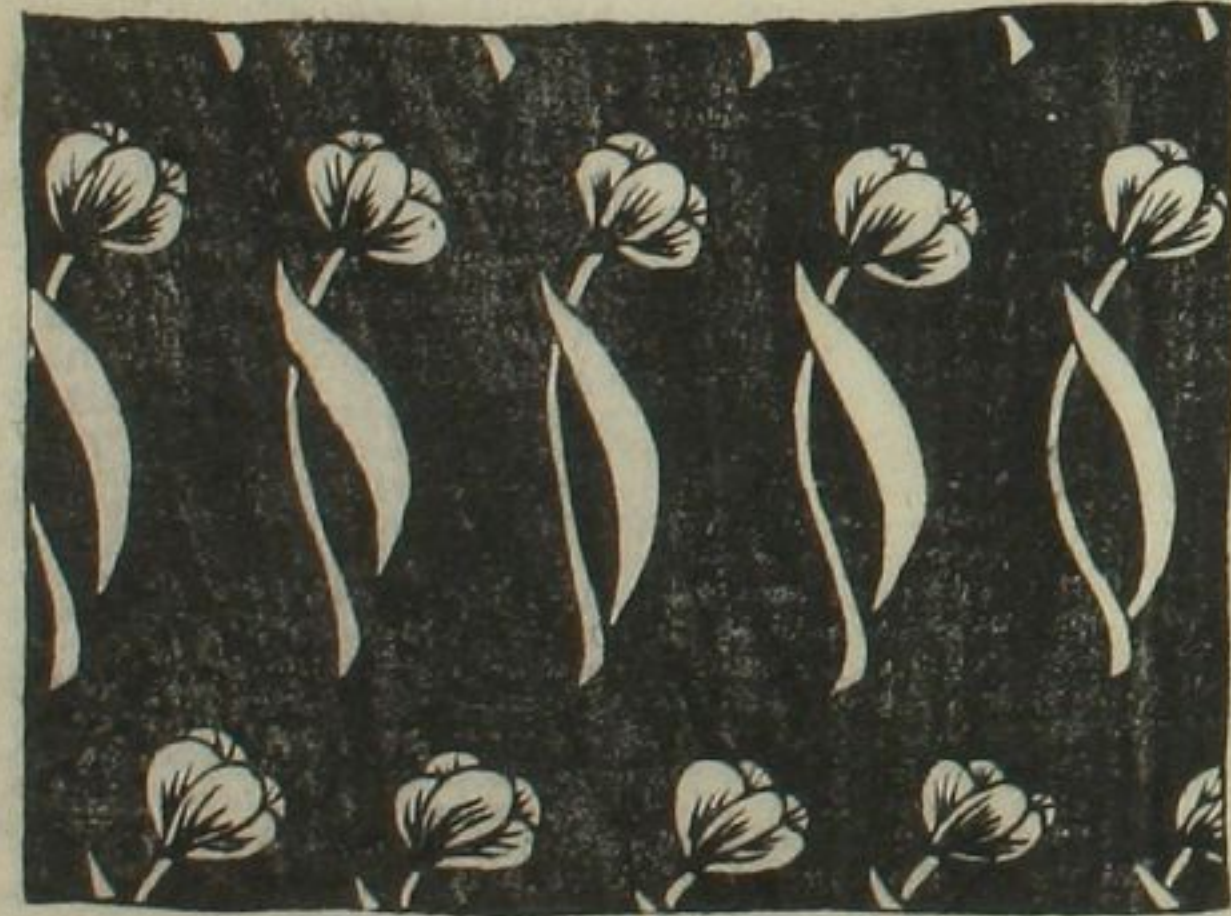


シウナ白

生エシジ

生エシジ中  
白ク儺又ク

細書墨  
シウナアイ



一解之地生エシジ  
花白シ生エシジ  
葉アイ  
ジク白古渡



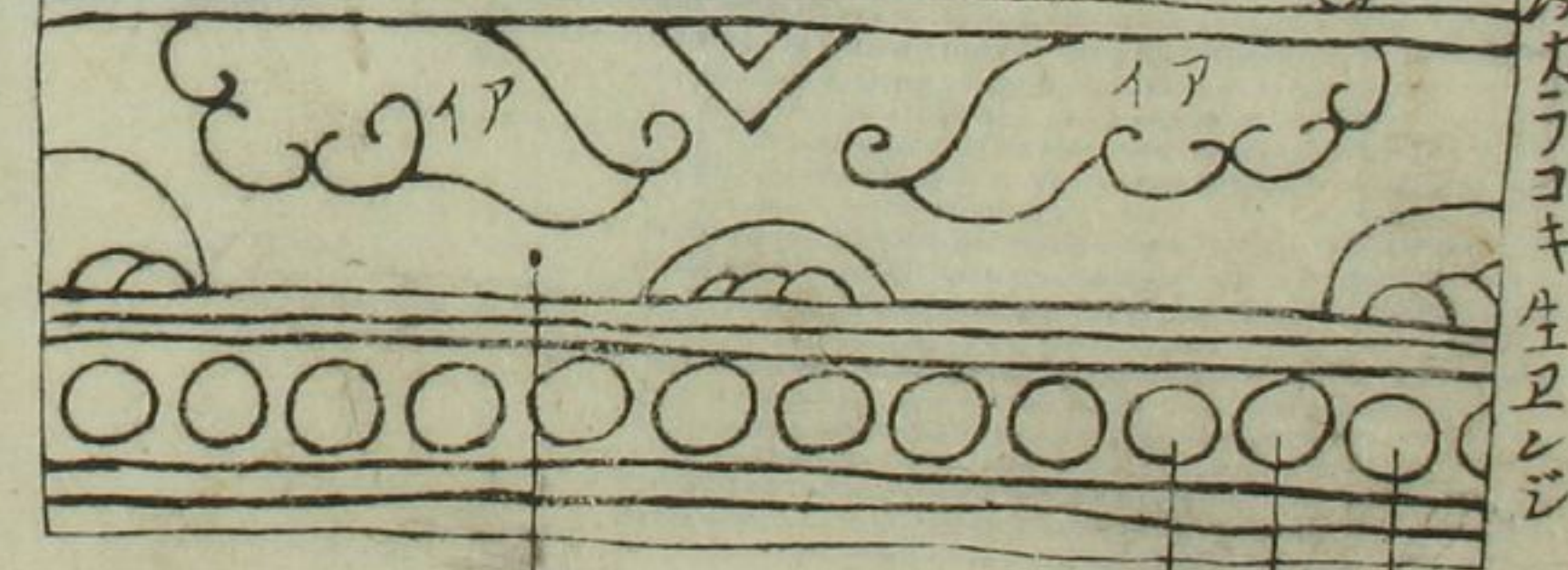
一解之地生エシジ  
花ノルイウスキ生  
エシジ  
シク白  
シクアイ太奇ナカノ  
九キモノ白ク儺又ク  
細書墨



以新墨  
 墨 十内ウキ  
 墨 生エシ  
 日 生エシ  
 地モエギ

虎

五



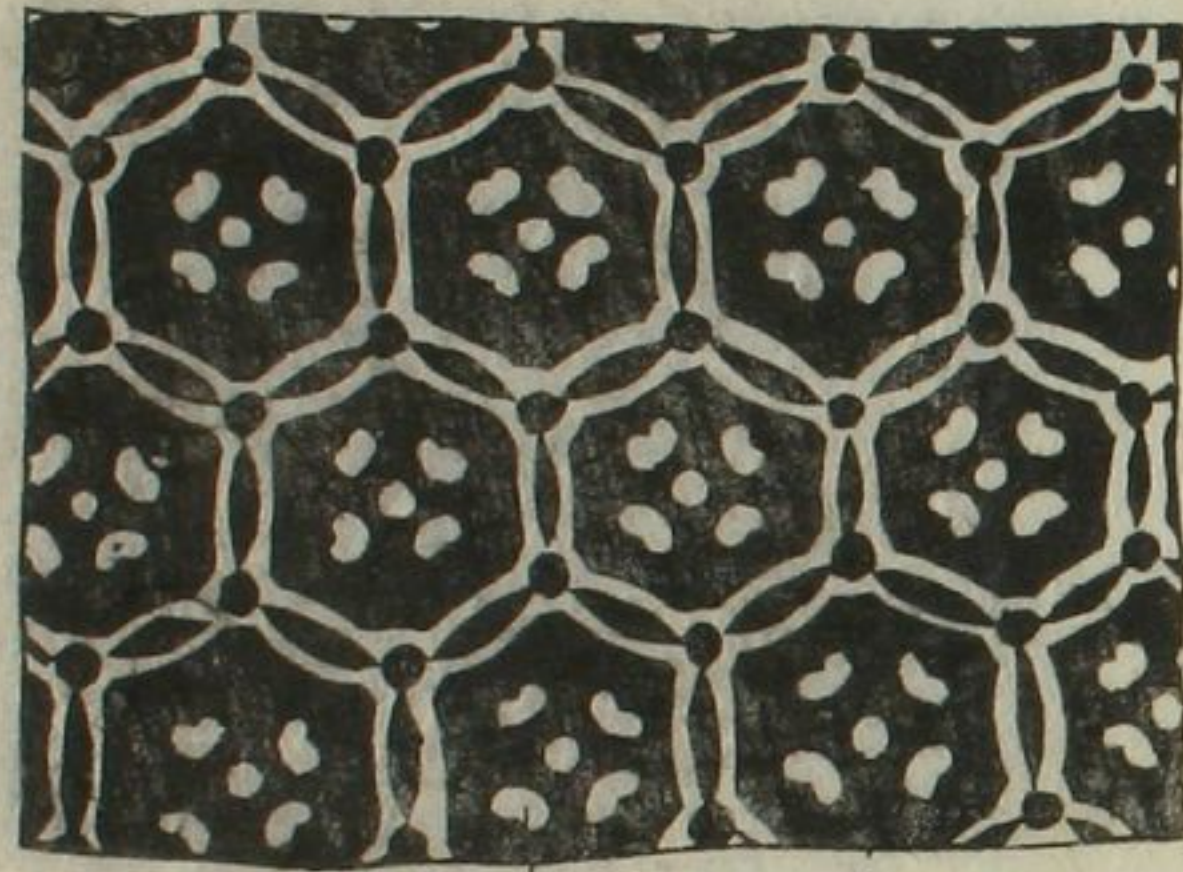
アイ  
 生エシ  
 以新墨  
 以新墨  
 以新墨

伊

四

以新墨 生エシ 以新墨 以新墨 以新墨





瑞遠花鏡アイ

ハフチエシ

地生エシ



地ツヤノ有墨

アイ

生エシ

紫

不気亀甲ノ中ヲモミ及ニテ為ル



ハハアイハ

ハハアイハ

ハハアイハ

黄

ハハアイハ

黄

黄

黄

黄

ハハアイハ

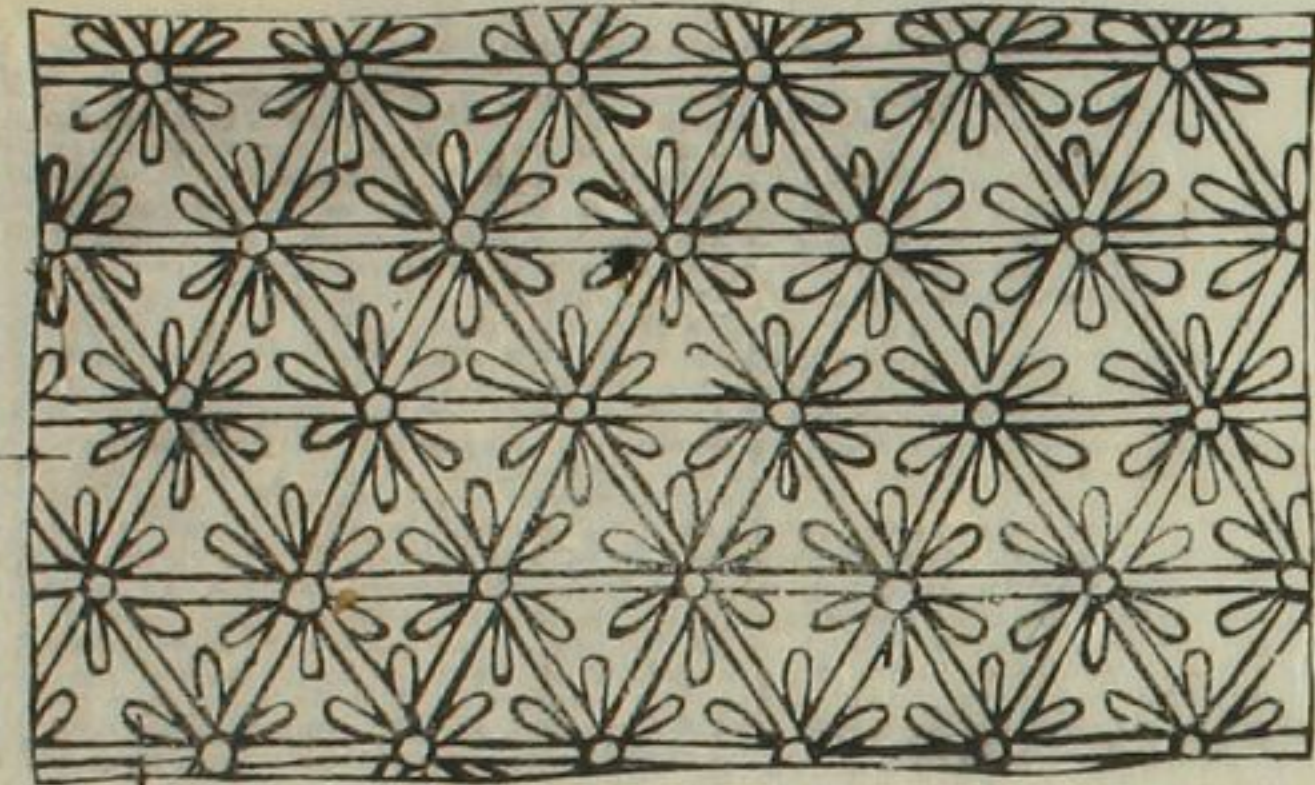
ハハアイハ

ハハアイハ

ハハアイハ

ハハアイハ

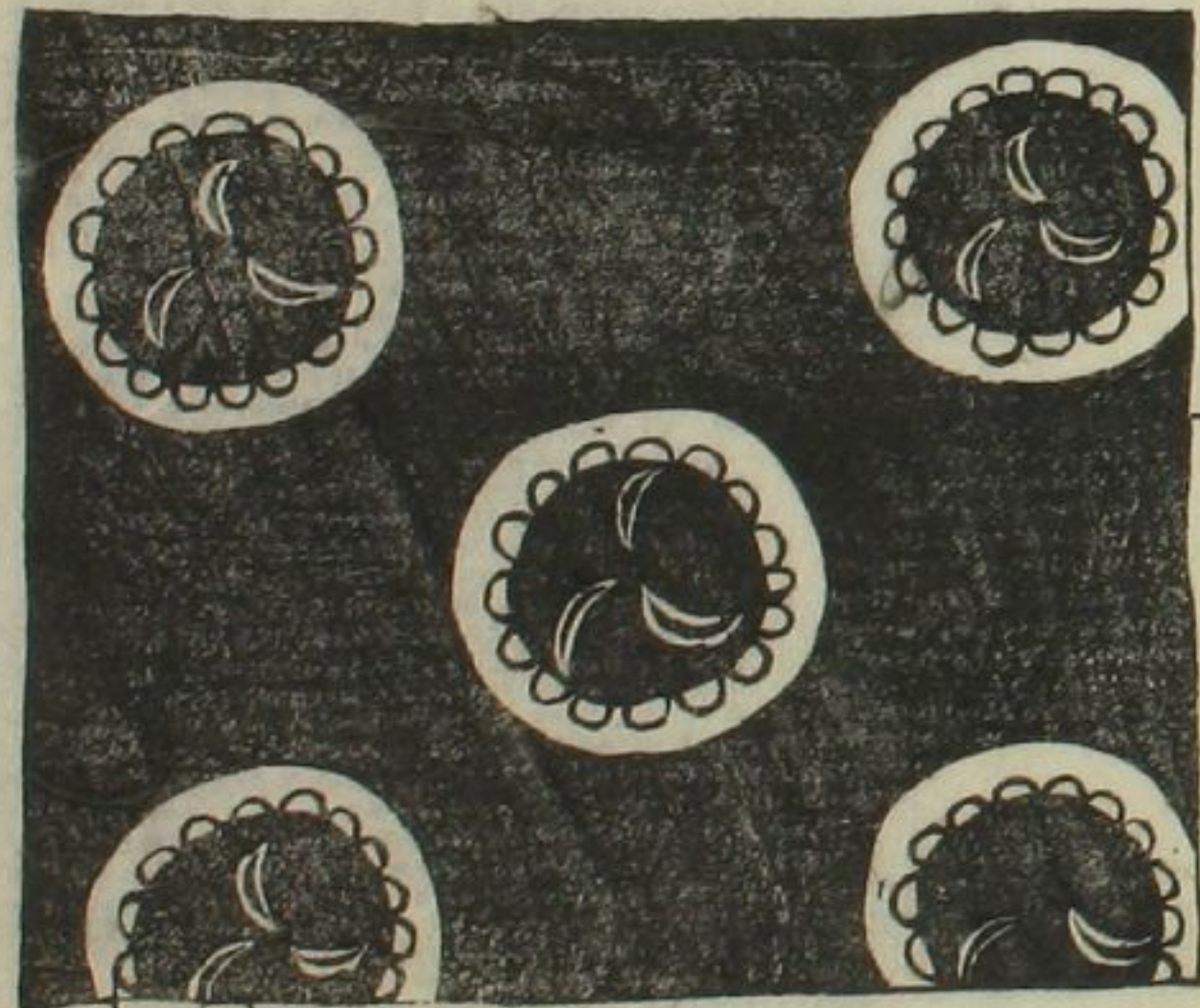
ハハアイハ



一タノ細虫絆

地ナヤ

生エレジ

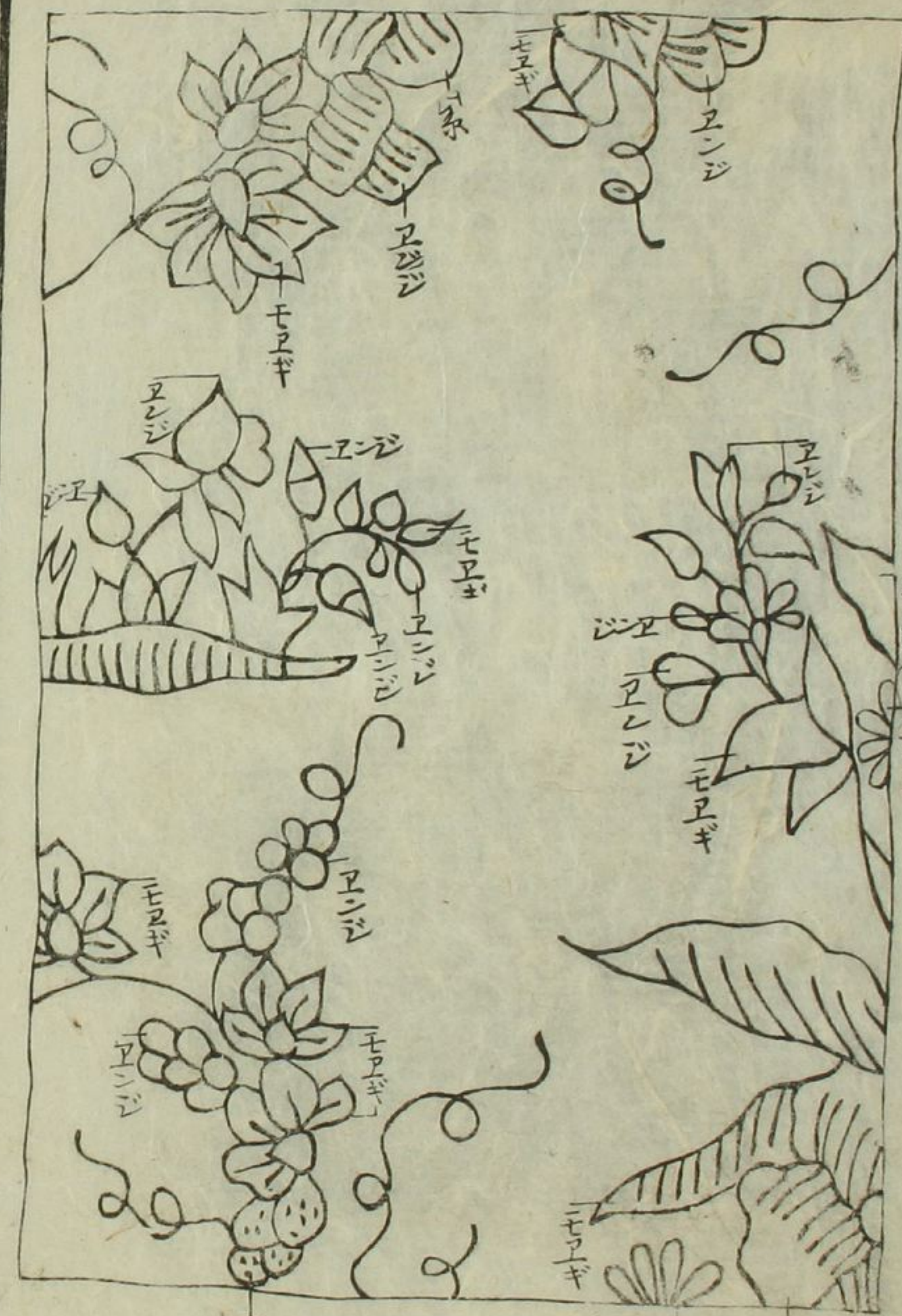


地アノ

生エレジ

墨

アノ



月

日

生エレジ

墨ニテ  
去ケル  
エ不殘  
金ナヤ  
ヘシ

ヒヨクダ  
スミカキ  
花赤ノカキ  
ワリ  
インチニ左右  
トモ同シエ  
ドリ



テウセン  
ギモシノアルモナキモ有



ワルハモエギ

傳

七

ケモノデ  
スミカキ  
カキワリ  
モイロサシ  
中イロアイ  
ニキサン



赤  
イニチン  
中イロ

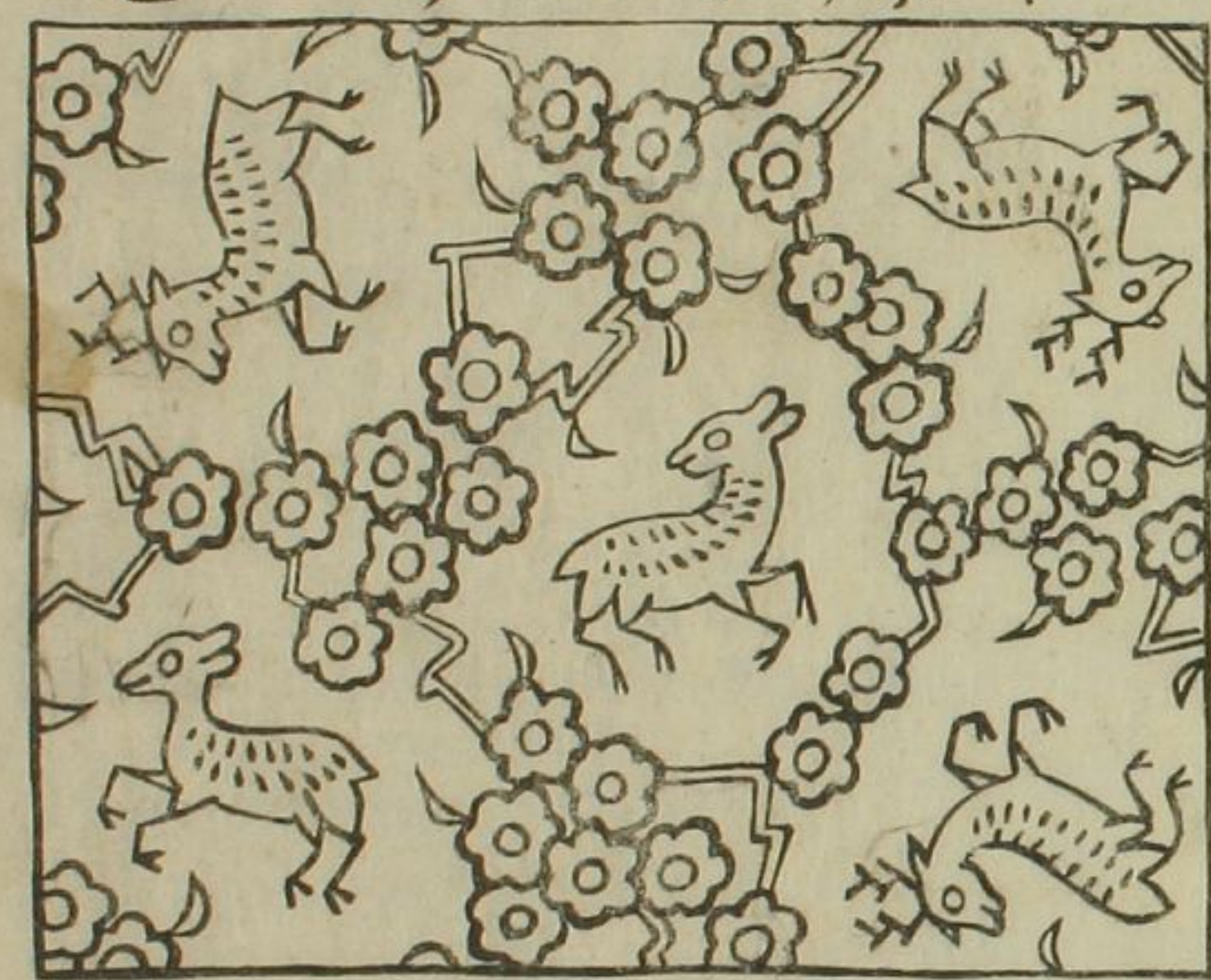
赤  
カキワリ  
モイロサシ  
赤  
アイ



赤  
スミ

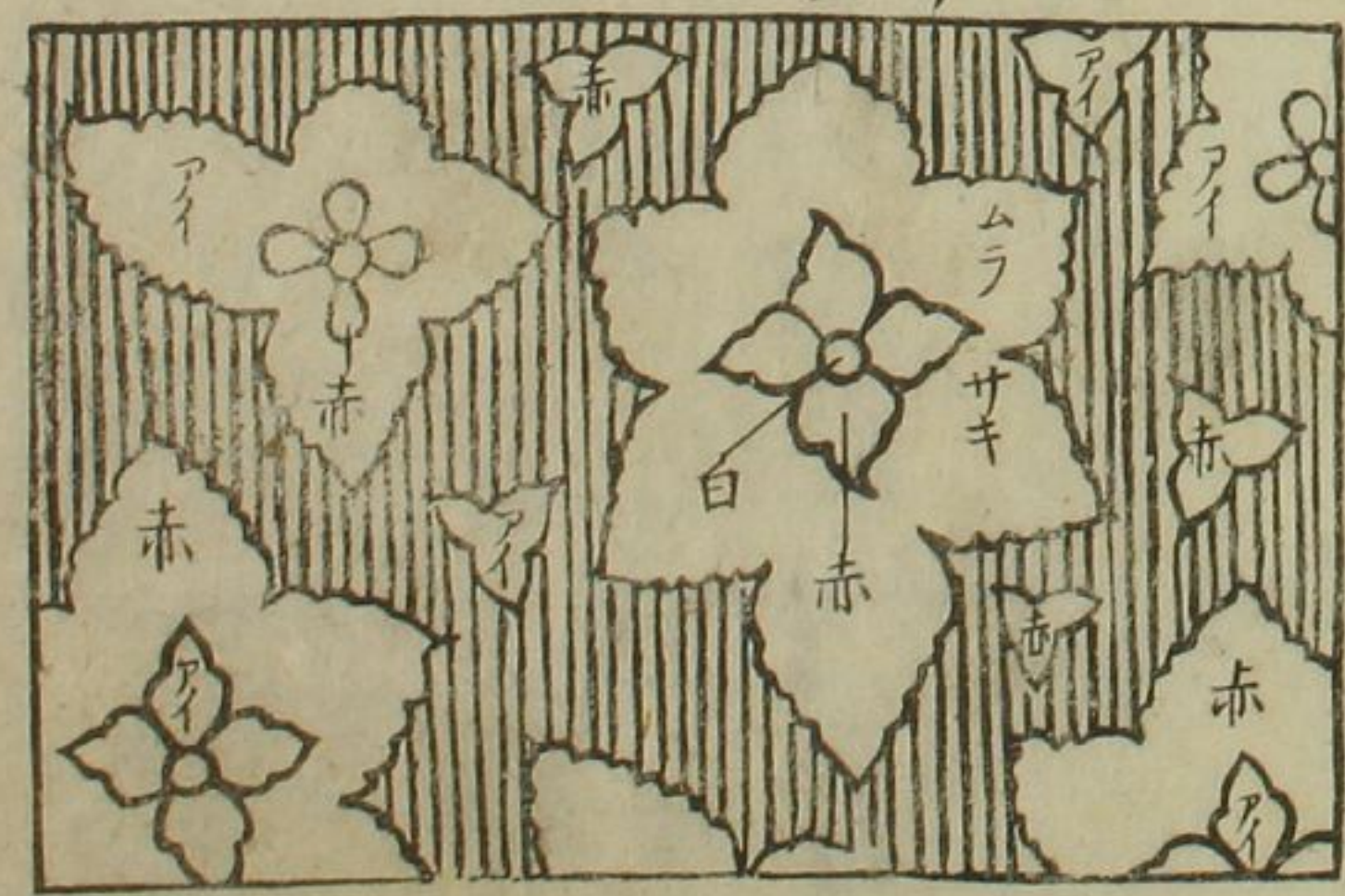
麻手  
テウセニ  
リウキウ

麻ッ赤  
ツムラサキ  
梅中ノ丸  
イニチン  
赤ッ紫  
ツアイニ  
キヨサス  
葉枝ア  
イ  
スミカキ  
花ハット  
クカク也

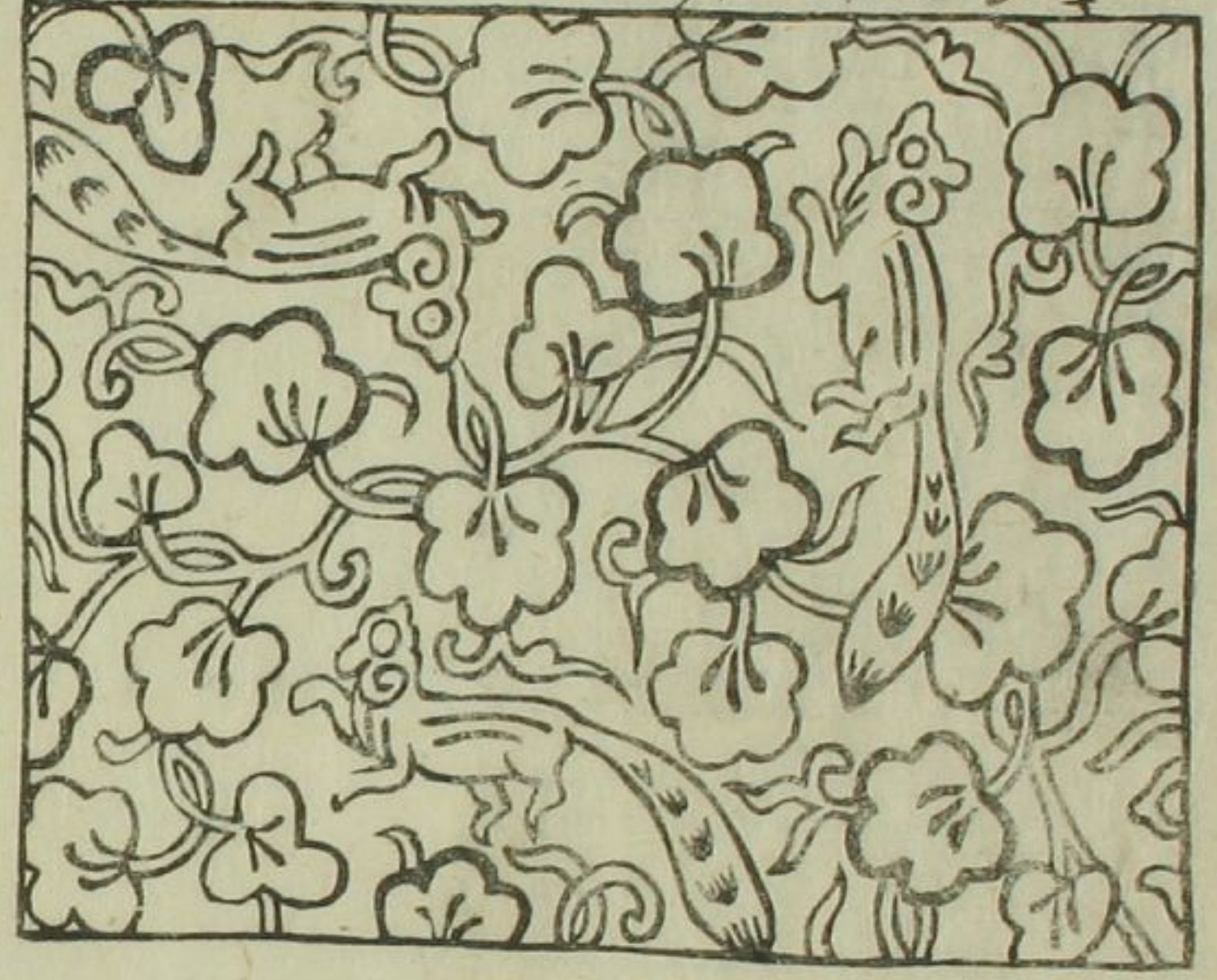


子セニサラサ  
朝セニ  
唐船持渡

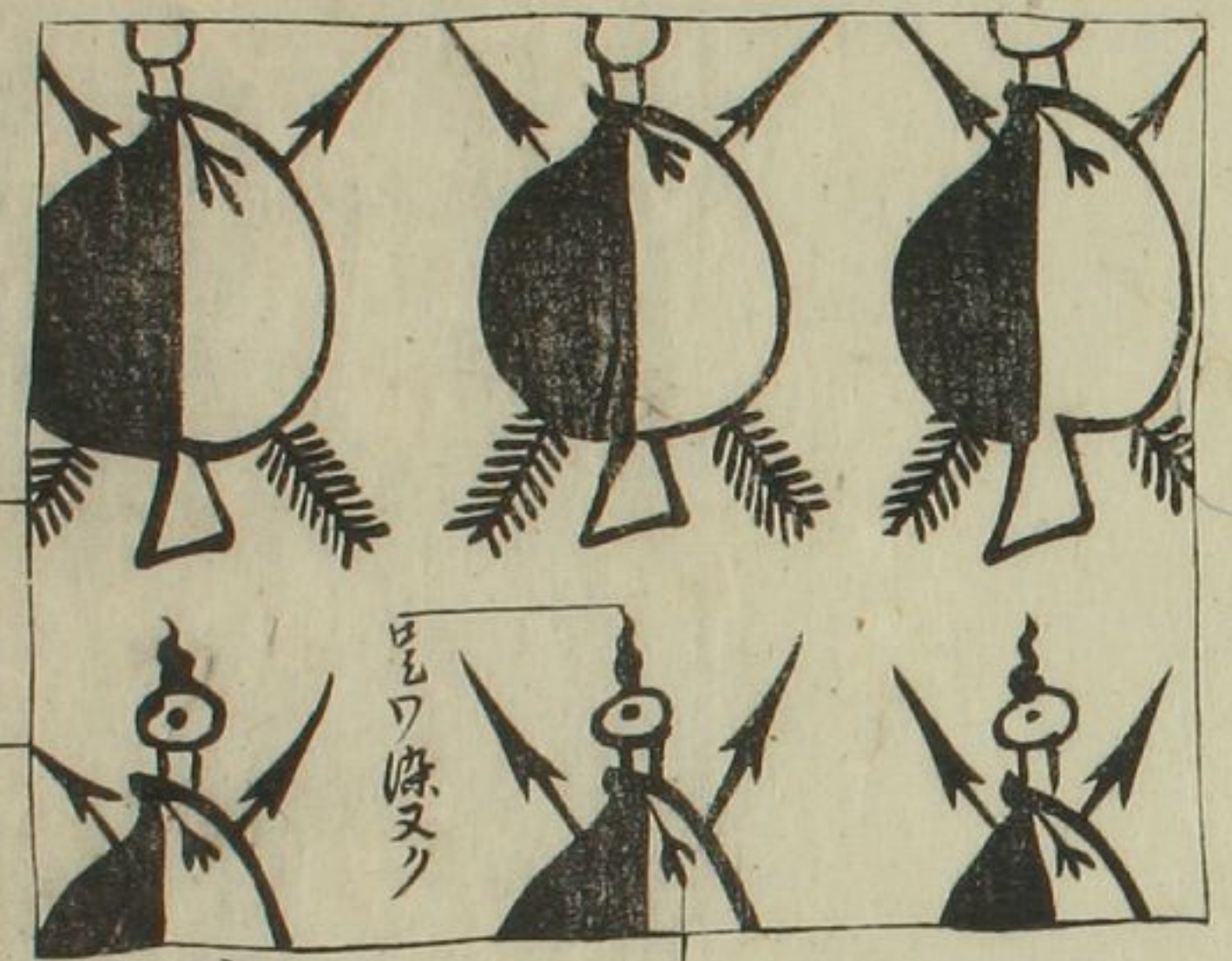
地モエキ  
キスコレ  
カツラ也  
フチサトリ  
エトル  
ベタニスル



フドウテ 唐 朝セシ リウキウ  
 スミカキ  
 リスミカキ  
 セ中ノスジ  
 ノナカスジ  
 ノナリニナ  
 カク井ニ  
 千ノ葉ハ  
 赤ボカシ  
 キニアイ  
 ノボカシ  
 ツル赤  
 赤地時  
 ハウル白  
 葉モノ古



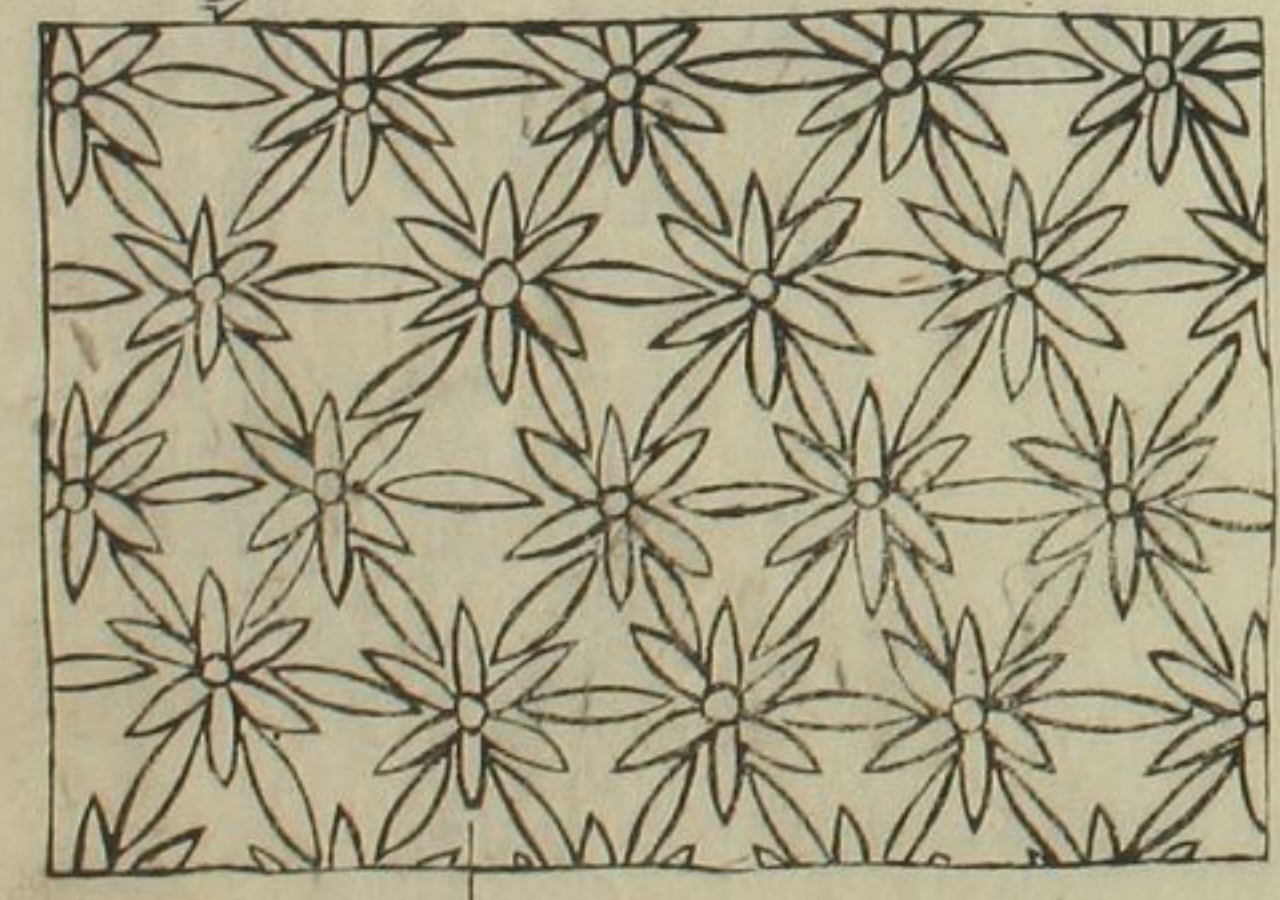
金サラサ 唐 テウセン リウキウ  
 フチガカリ  
 金シベハ  
 キナシ



生エシ

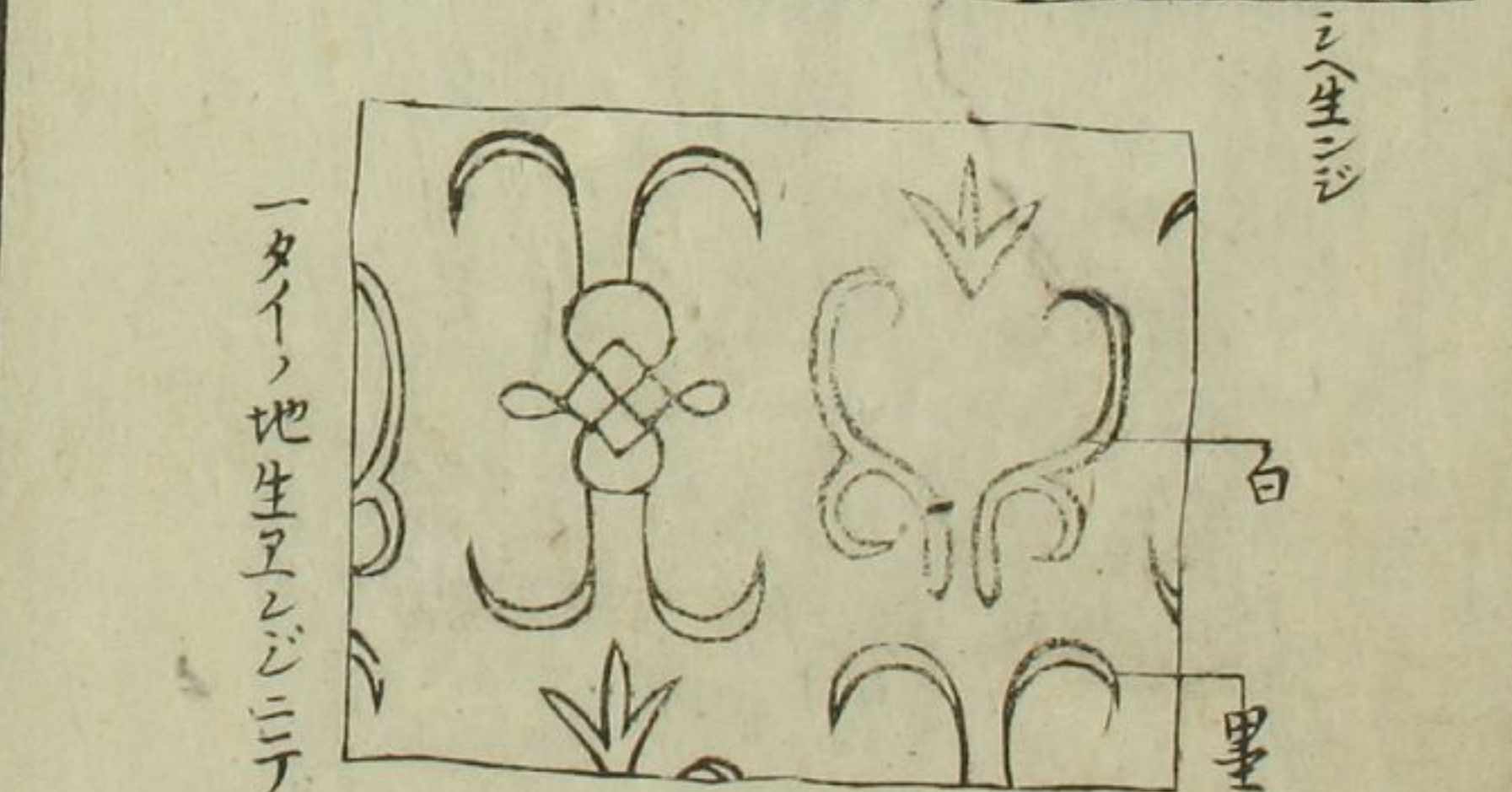
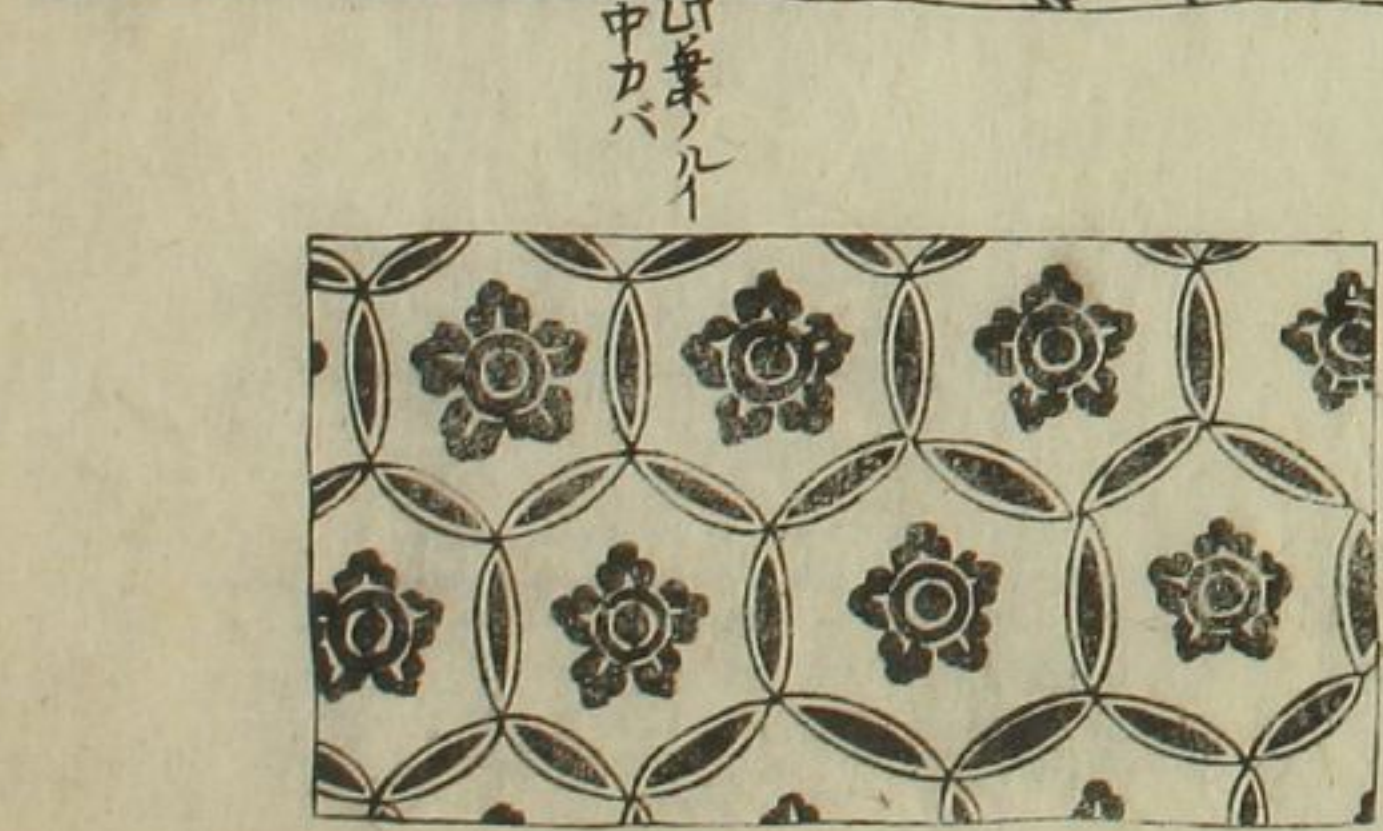
生エシ  
 ウキ生エシ  
 白タ條ヌク

一タノ地コビキヤ



生エシ

一タノ細云條地キヤ

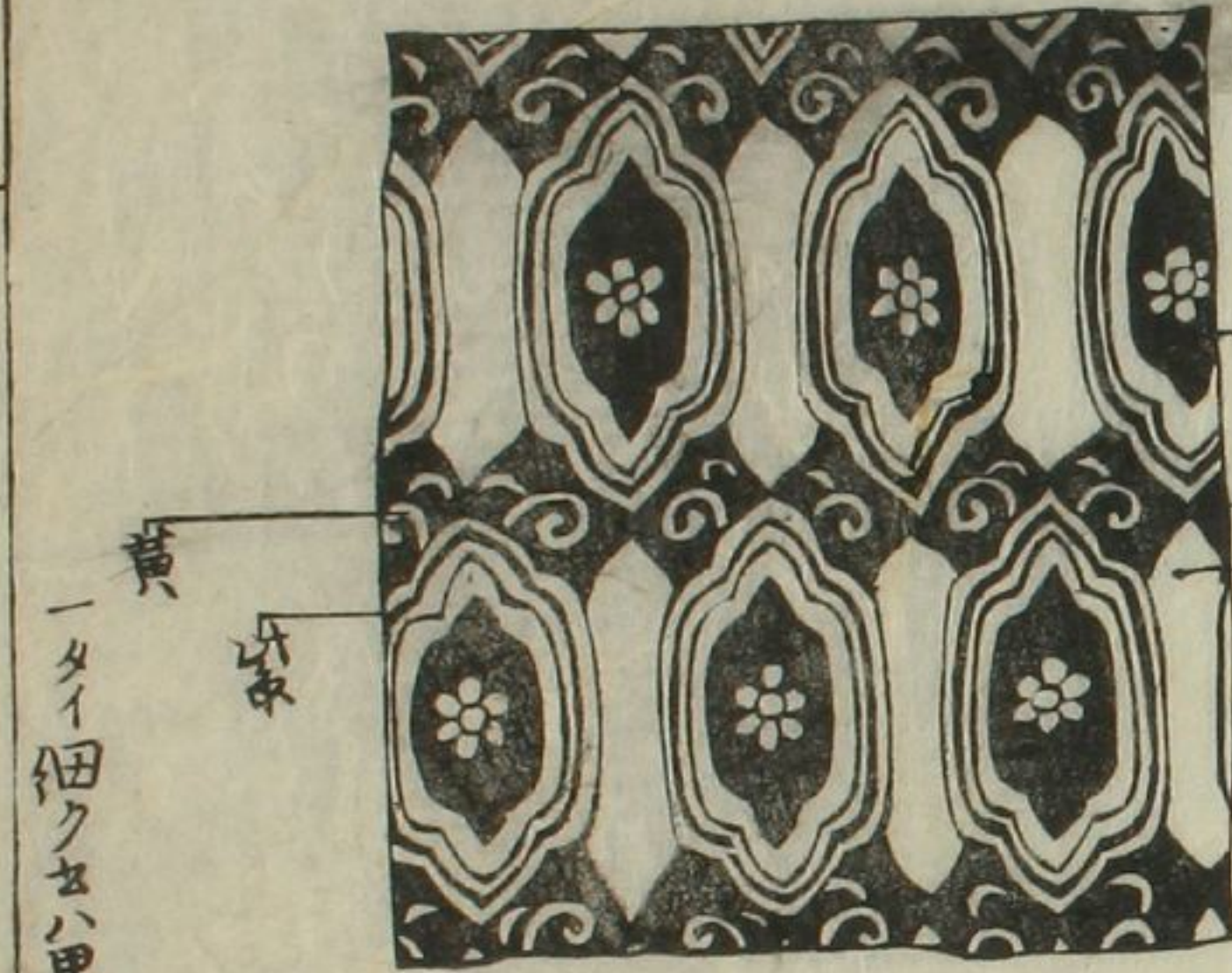


傳目録

海ツルモユギ

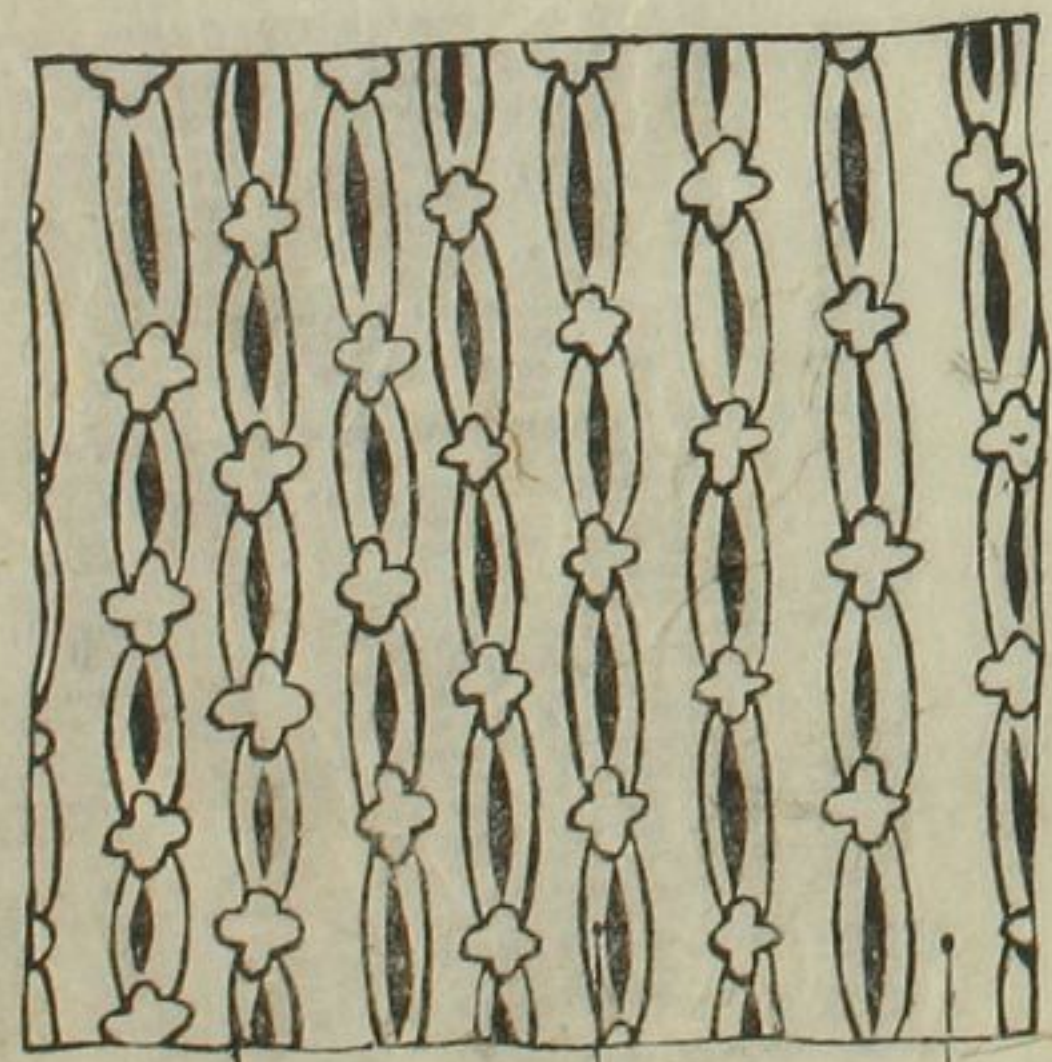
十

一タイノ地生エシニテ吹給



黄  
一タイ細ク女八里

生エニシ  
アイ  
生エニシ



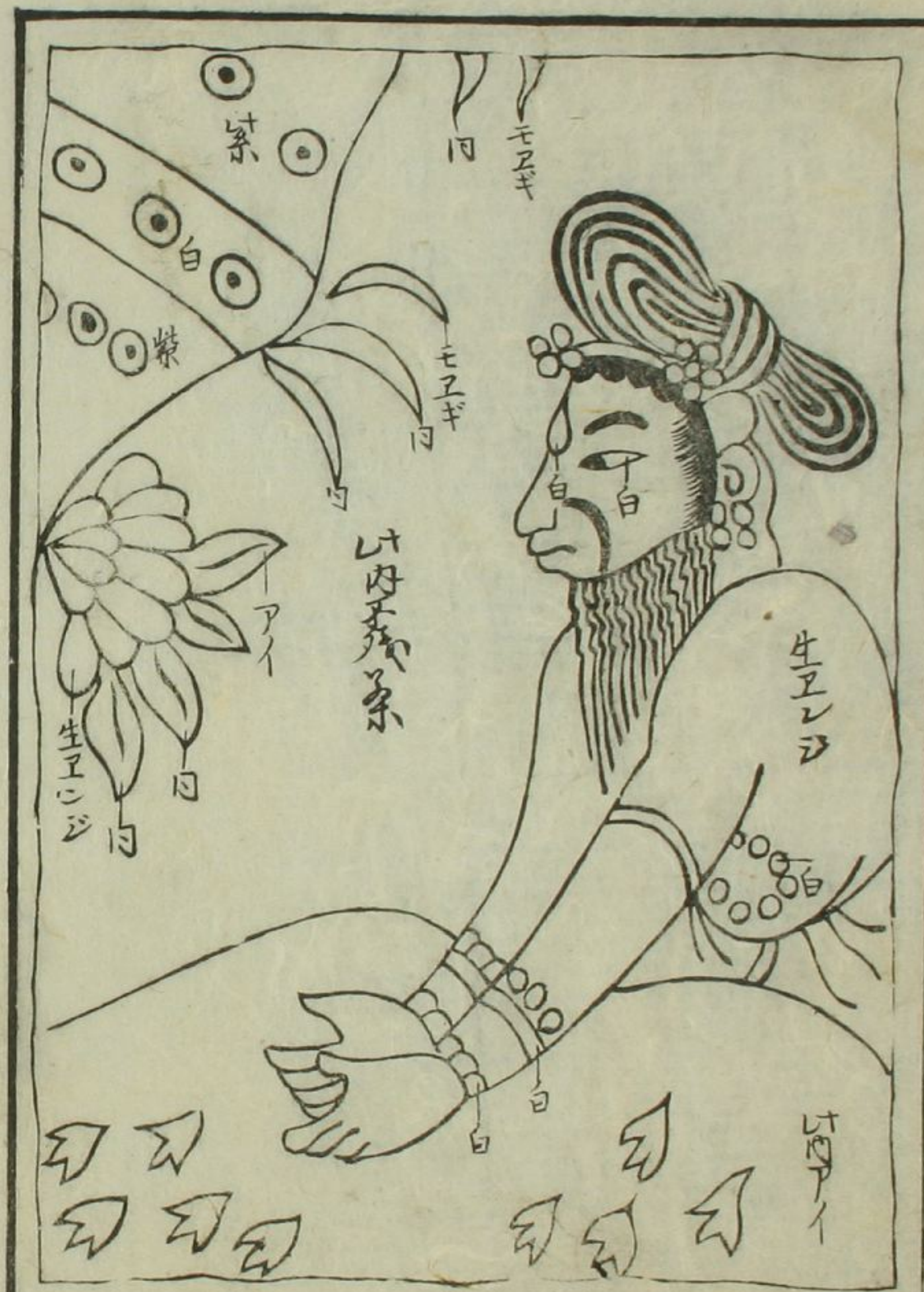
アイ  
生エニシ  
地エニギ



カラクサ  
深又キ  
カ  
サ  
ル  
イ  
イ  
家  
二

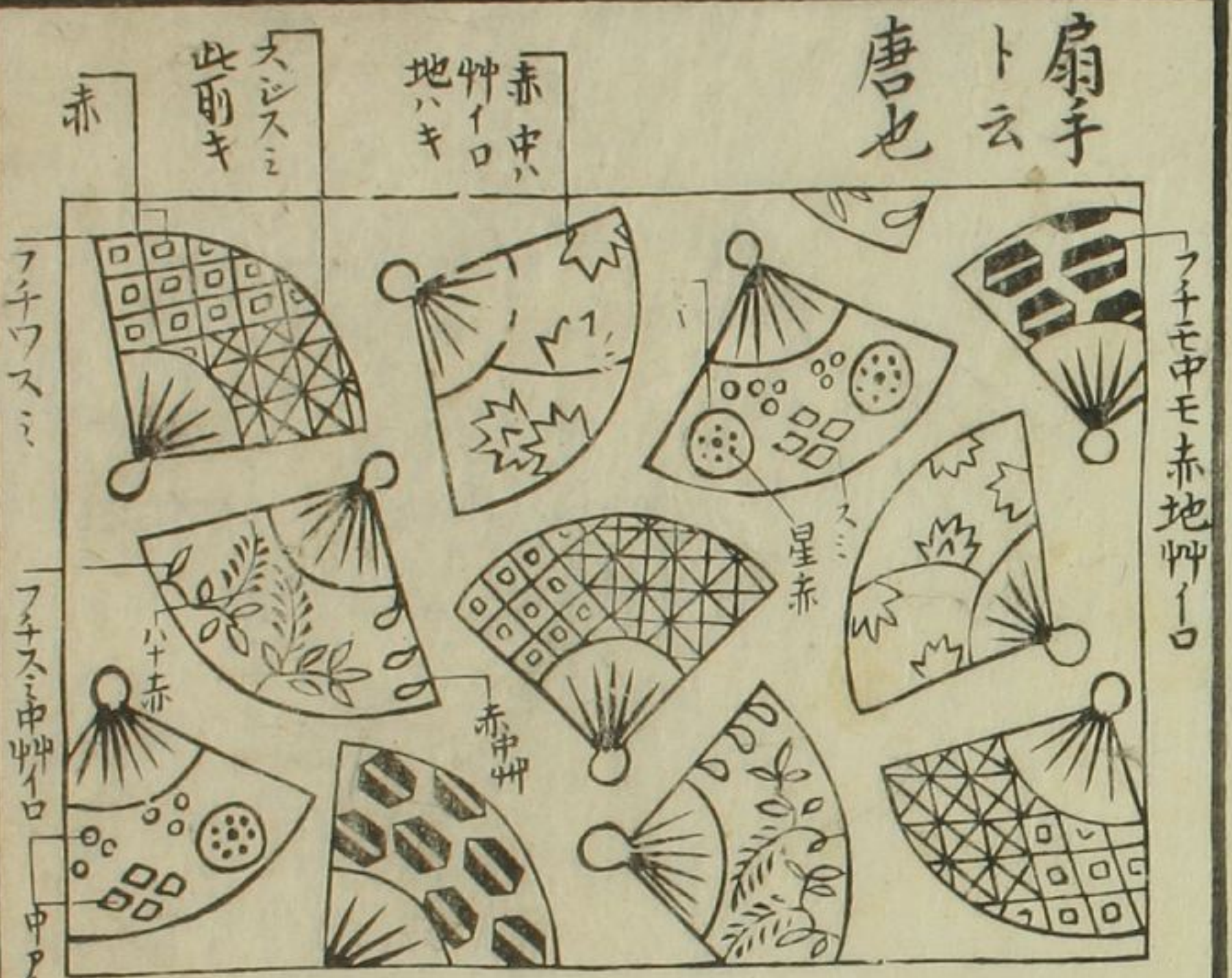
ハ  
ル  
イ  
ア  
イ

内  
白

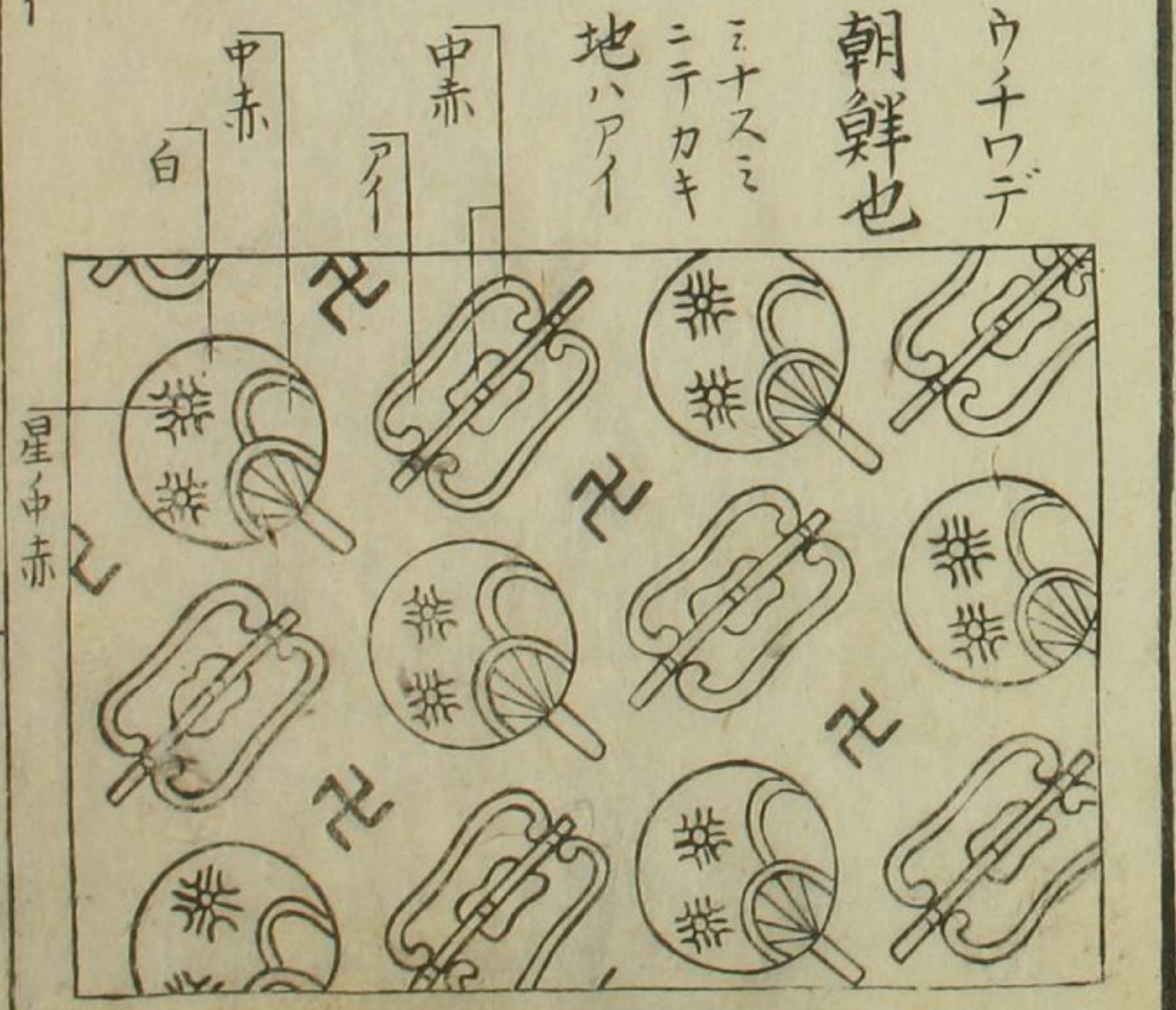


拍ノ古渡

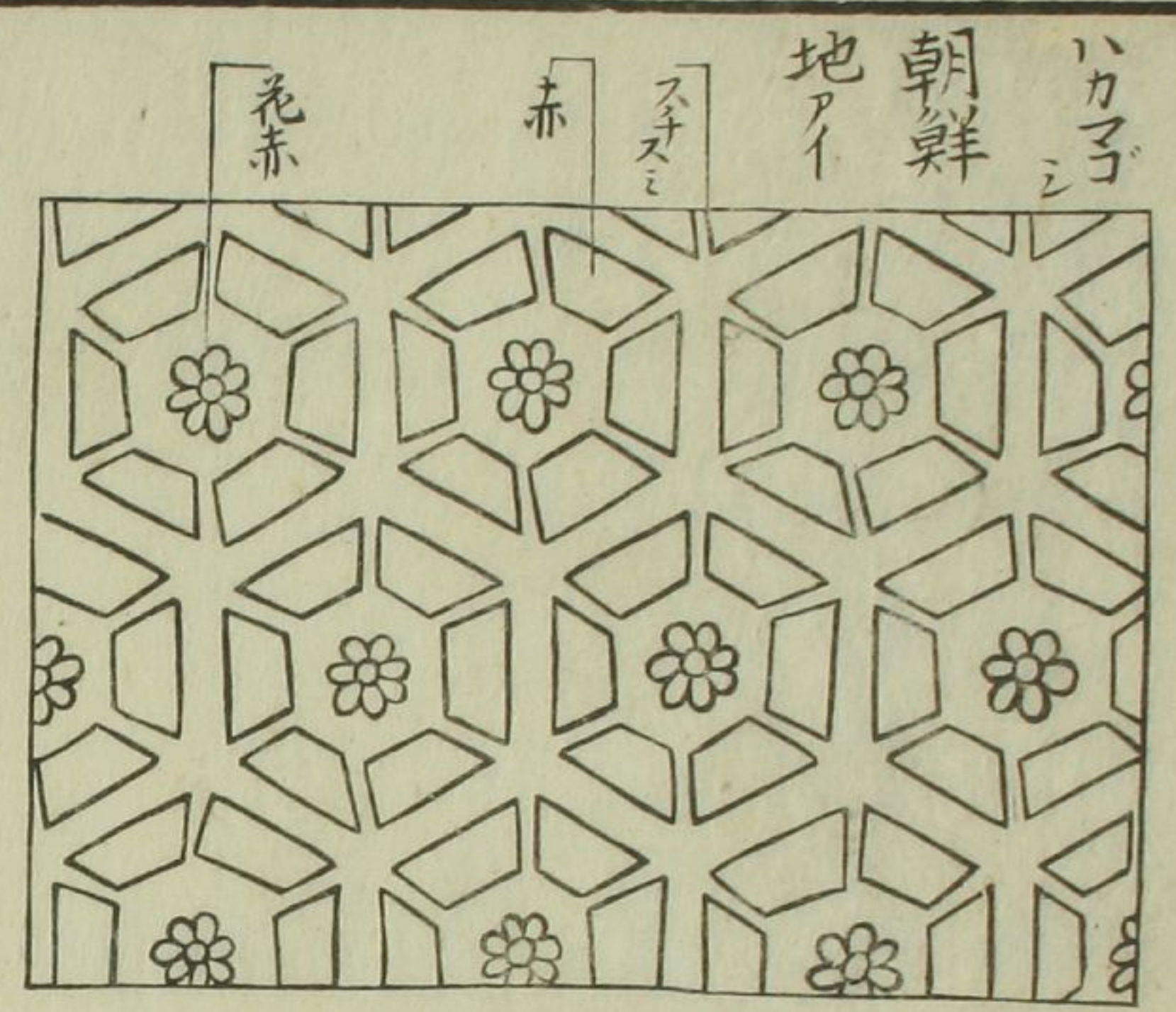
扇子  
ト云  
唐也



ウチワテ  
朝鮮也

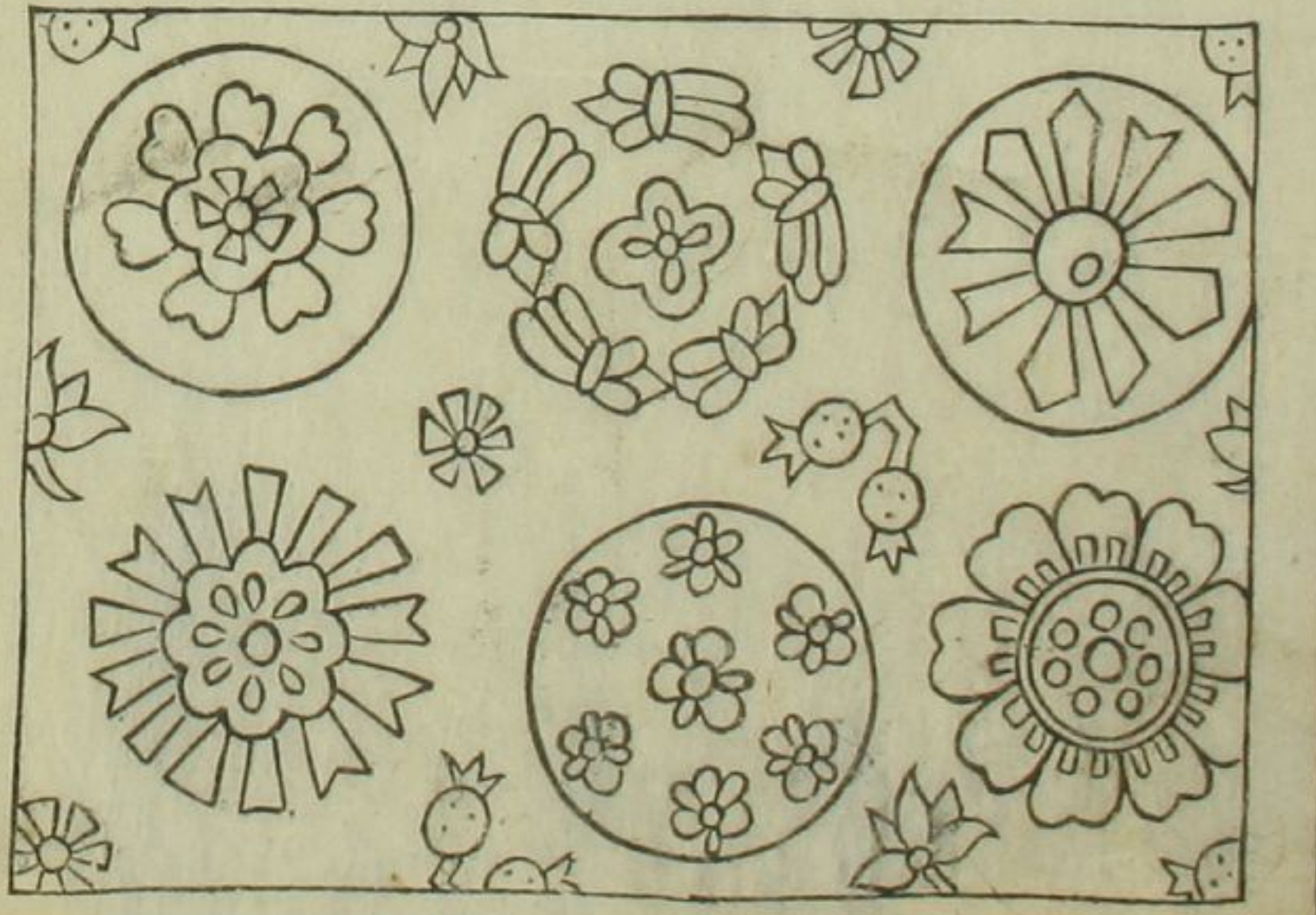




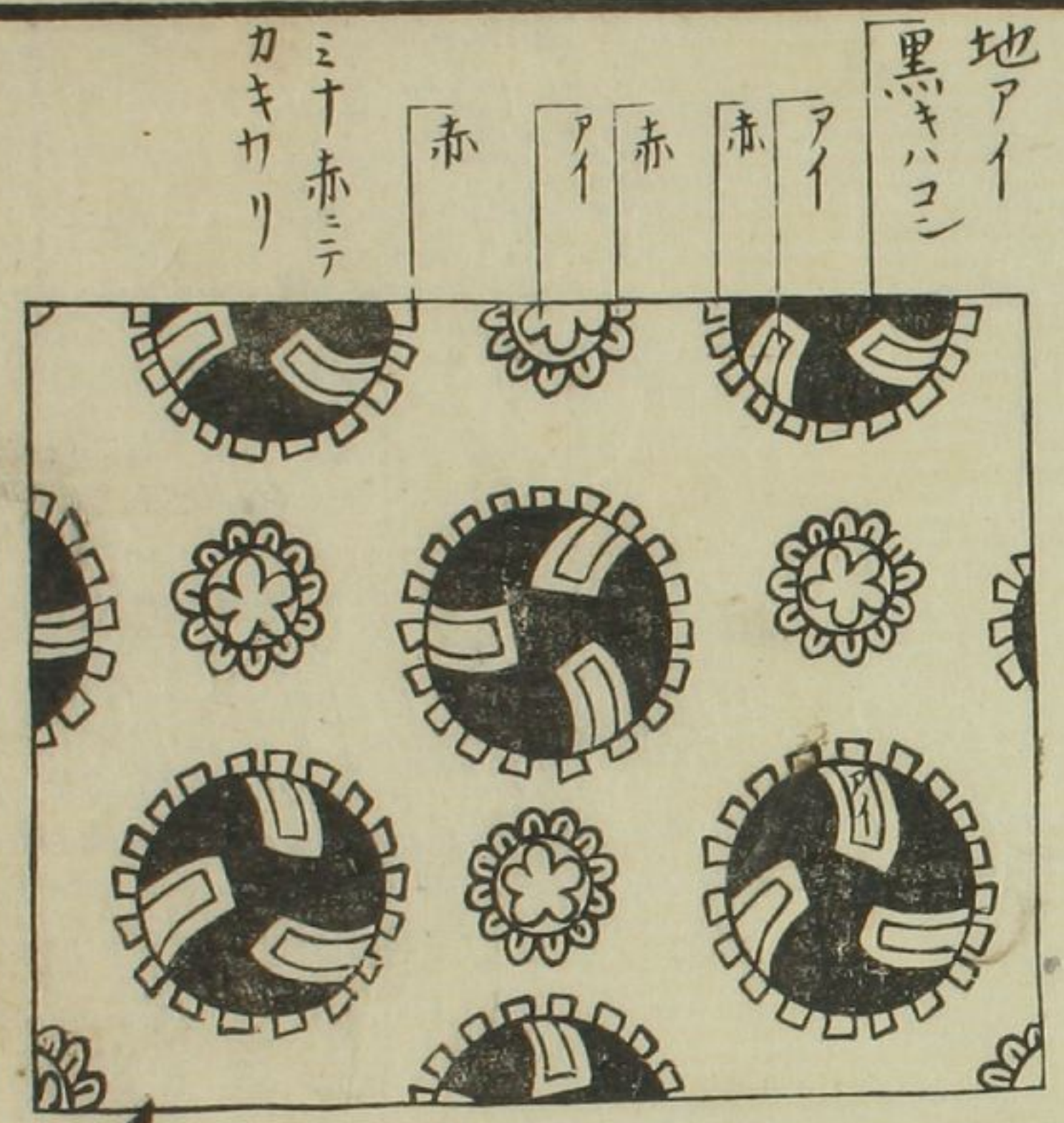


ハカ子 朝鮮地  
スナミ 赤 花赤

紋出 上同 地アイ  
スミガキ アイト赤  
タカイ子 カイニシ  
テヨシ足 白定ヤキ  
カヨシ

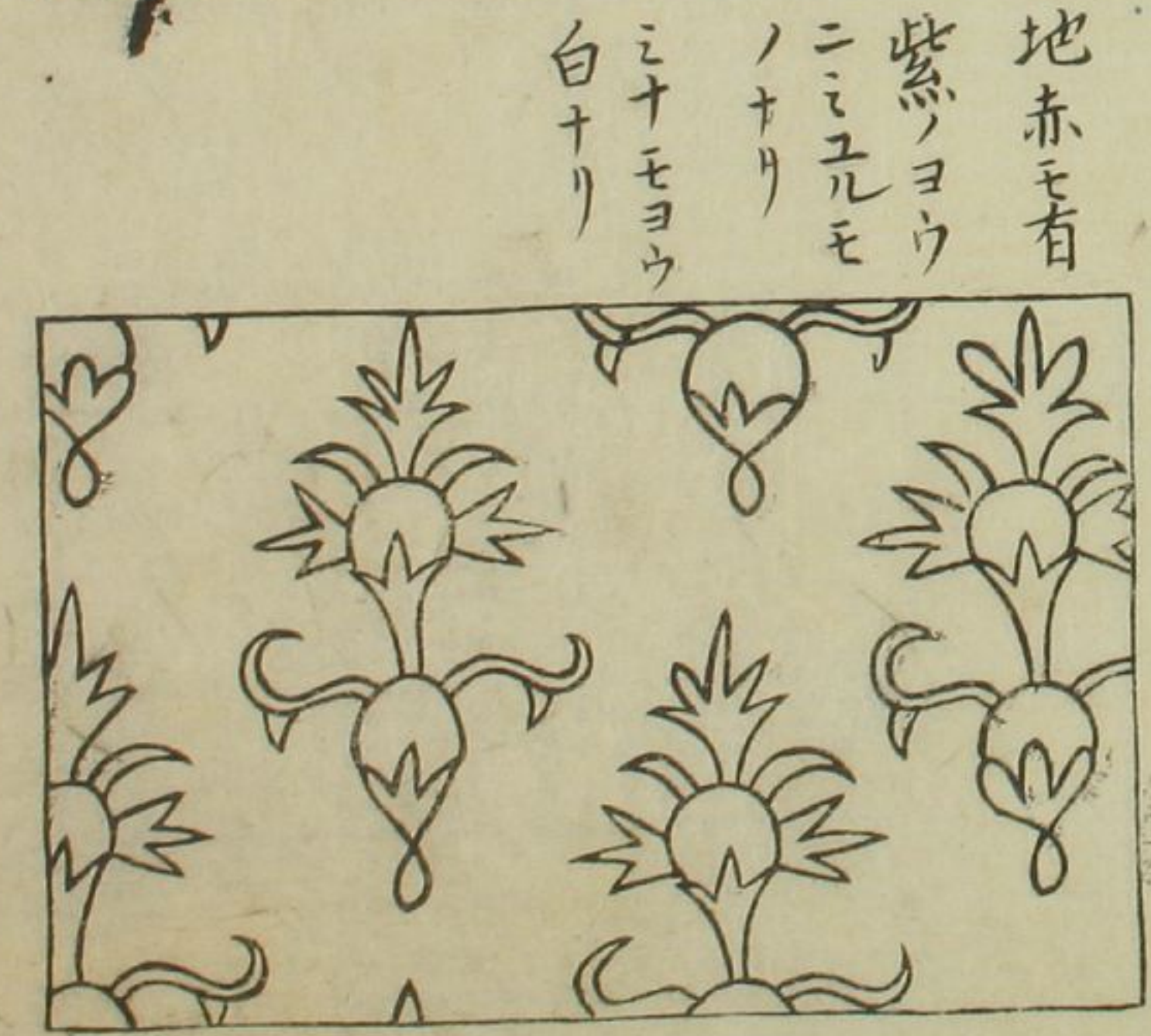


ゴトクデ テウセン



地アイ 黒キハコシ  
アイ 赤 赤  
アイ 赤  
ミナ赤ニテ  
カキヤリ

霜フリササ 朝セシ



地赤モ有 紫ッヨウ  
ニニユモ ノナリ  
ミナモヨウ  
白ナリ

倭國

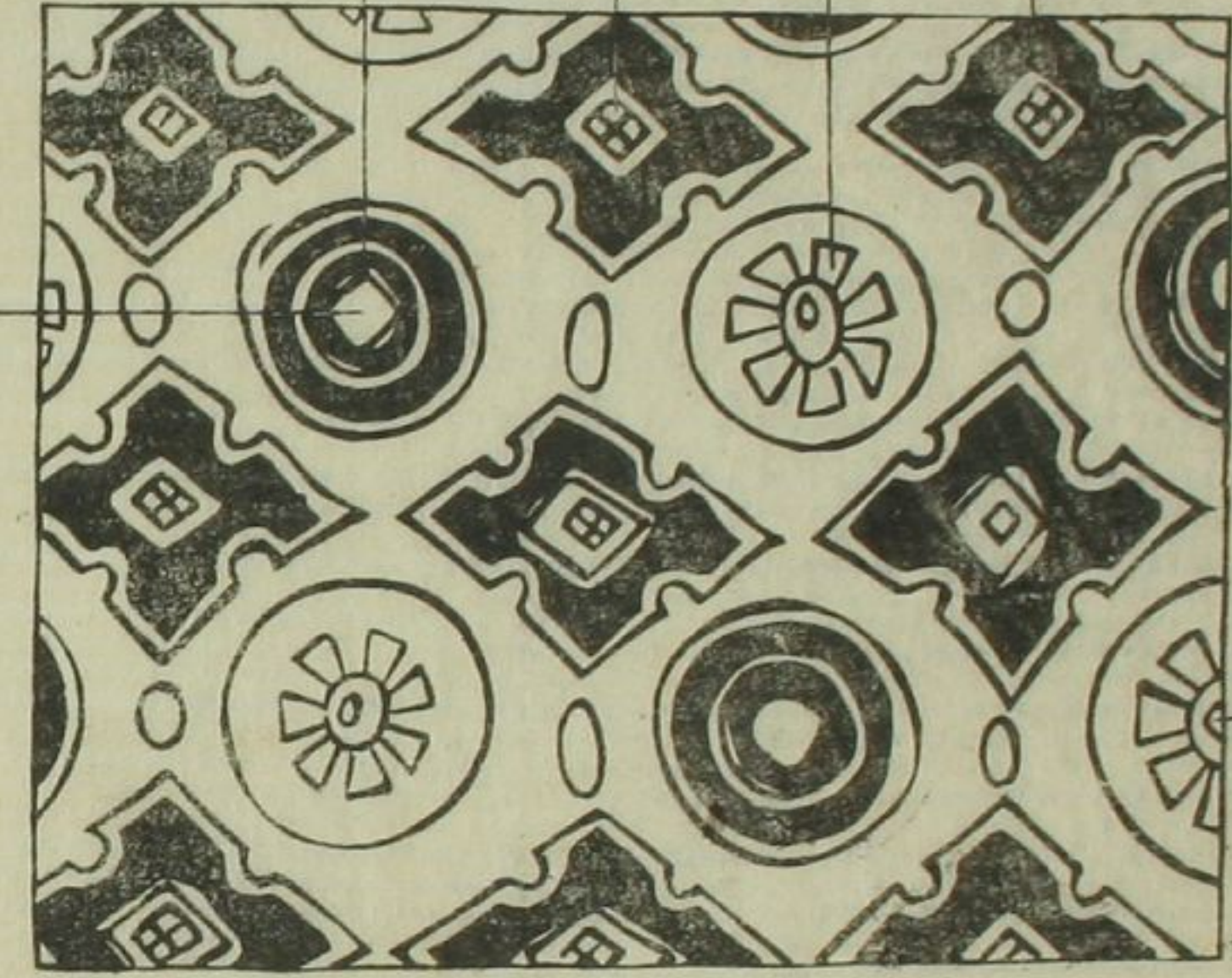
菱手 テウセン

地アイ  
スミカキワリ

赤

アイ

コシ



赤

キ

井ノゴデ 唐也

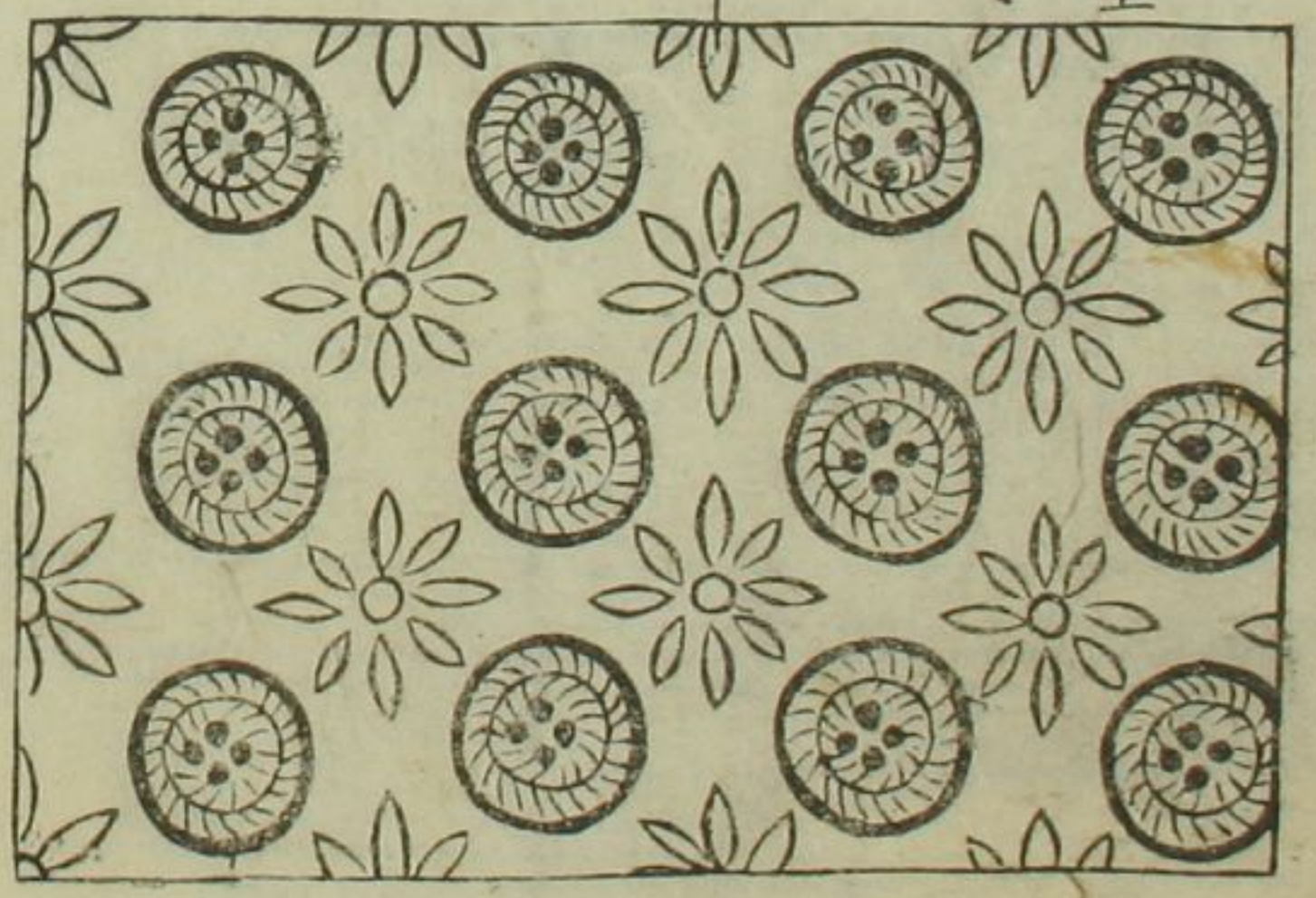
地赤

ワシロ墨

赤此マ

ワリアイ

ゴマ



魚手 蠻國也

地黒

地トノヲチ

ヲ少シツ

トリ

魚ハ目ヲ

白ツノコシ

コナアイ



鳴サササ 朝鮮也

赤

赤

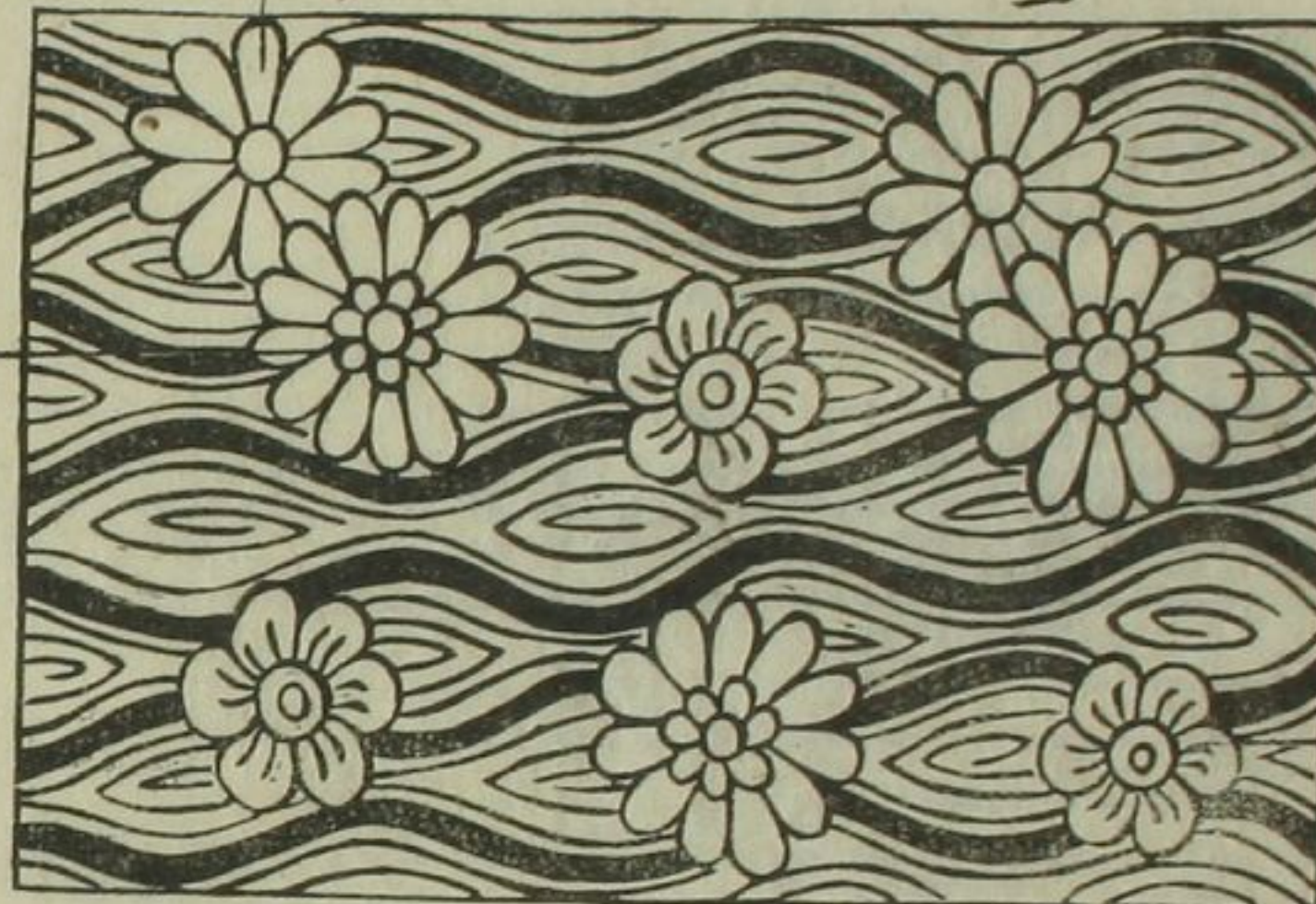
赤

白



網手朝鮮也

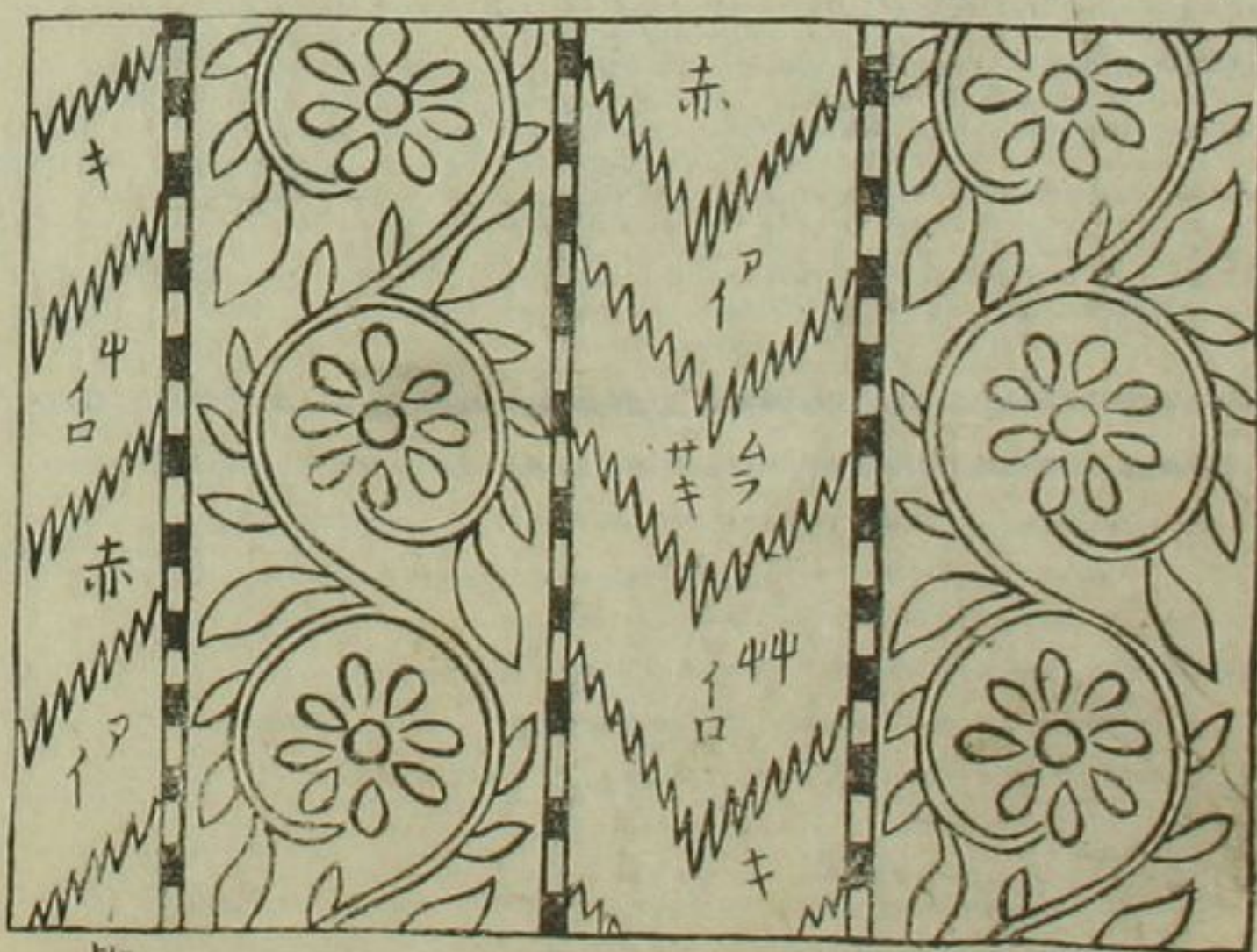
地アイ  
細手ノ  
太キハ墨  
細キハ  
花ハ赤ミテ  
カキ一ツハ  
赤一ツハ  
紫小キハ  
白ニテ赤  
シベ



ヤエノ内ハ白

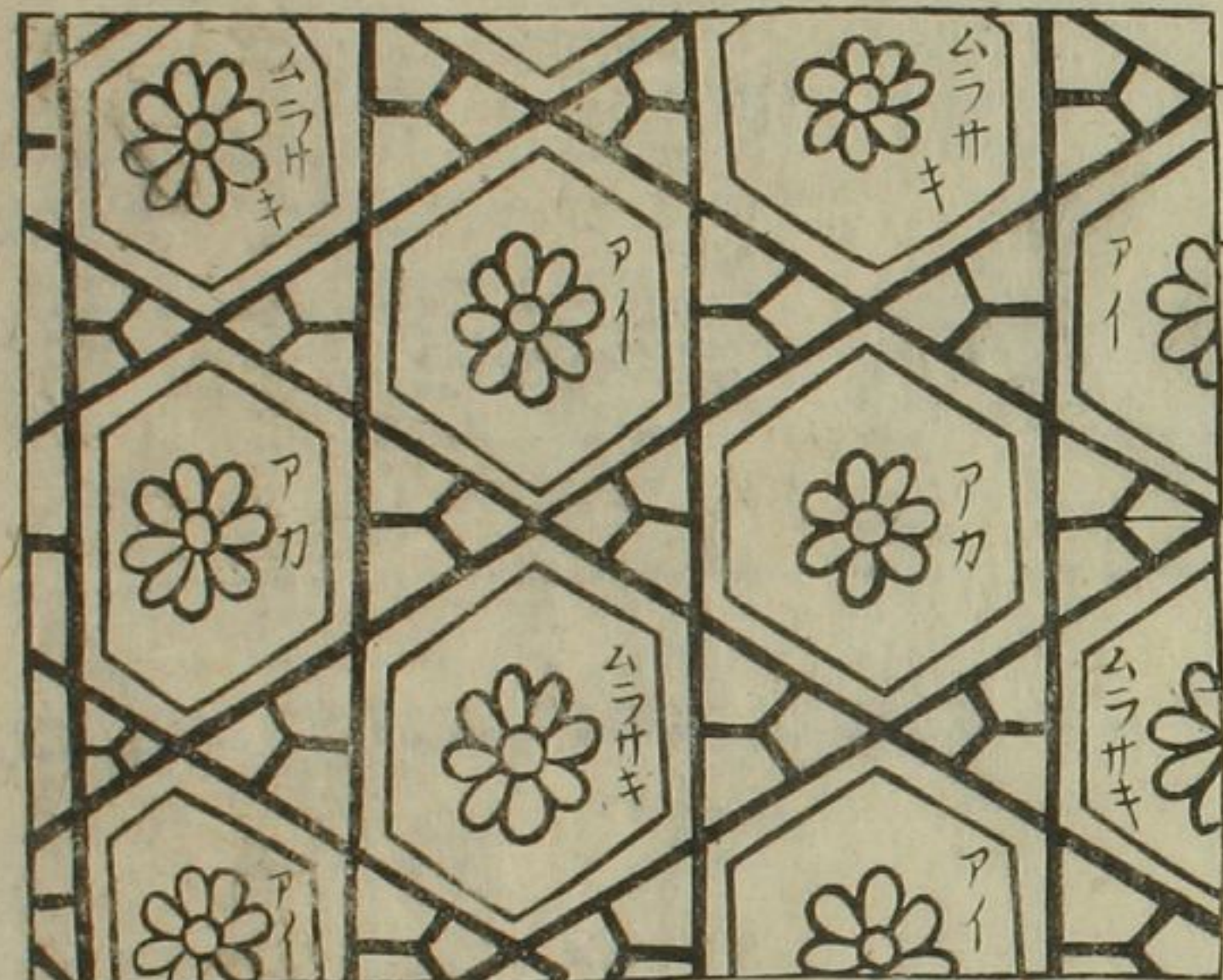
ムラサキ  
赤  
ムラサキ  
唐也

扱カキワリ  
スミ  
花赤一ツ  
紫一ツ  
ツル葉木  
タニノスジ  
ノ星赤  
此ラコク  
中ホトヨリ  
赤ホカ



紫

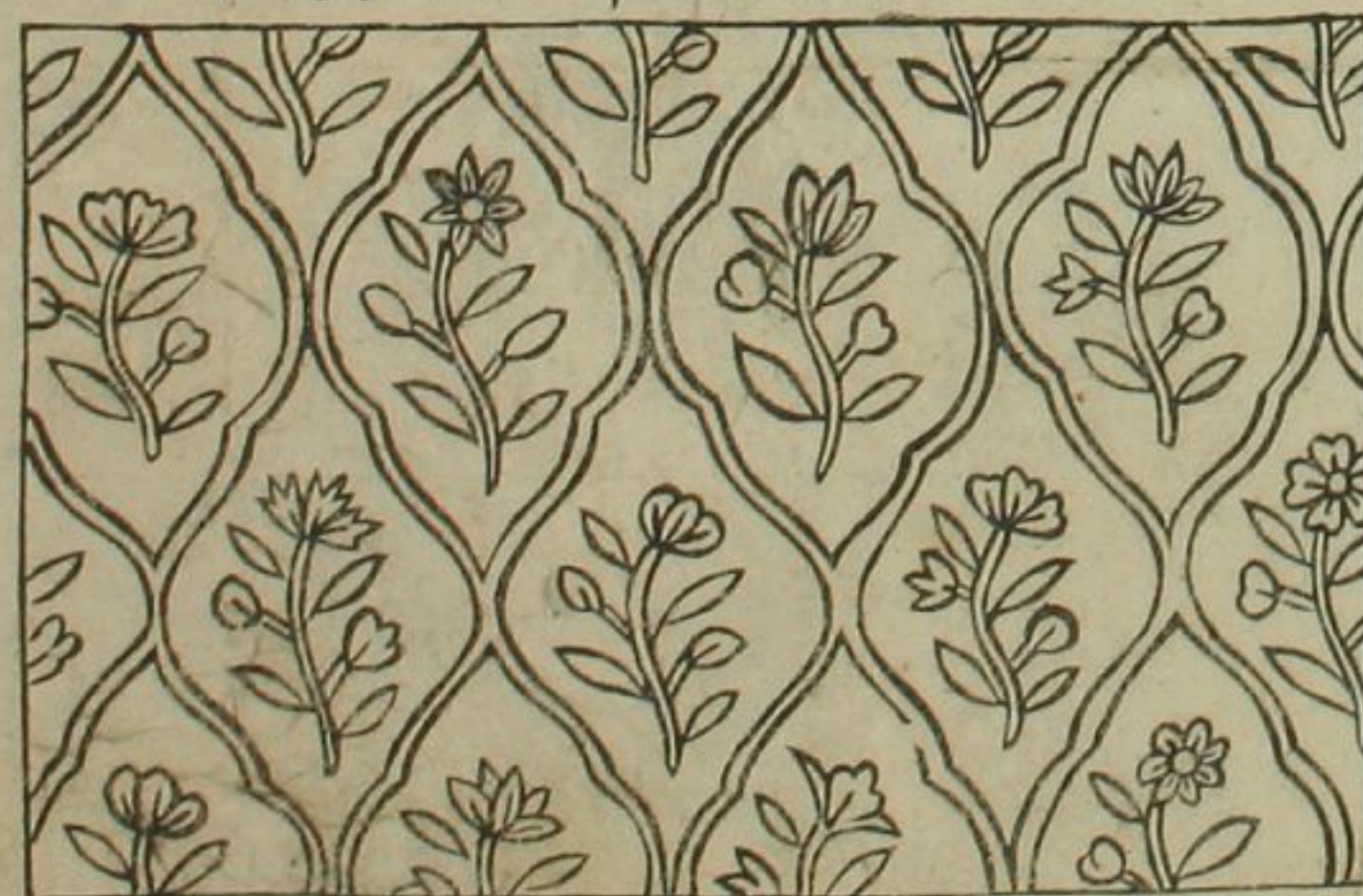
カゴメサラサ  
唐也



赤  
スミ  
赤  
白

アミ手  
唐也

スミカキ  
赤  
カキワリ  
ツホミ赤  
花ハ一ツ  
ツ紫ト  
モイロ  
シベ一ツ  
赤  
モアイ



巴手 テウセン

地赤

赤

アイ

コシ



牡丹出唐也

赤カキワリ

モイロ

白

地艸

千モシ  
イニナシ



カクテ

地アイ

赤モアリ

スミガキ

アイト

赤トノ

ア井タ

スツシフ

千ヲトリ

ヌルナリ

唐朝鮮

赤アイ白赤

ゴマテ

ゴマアイ

イニシ

赤

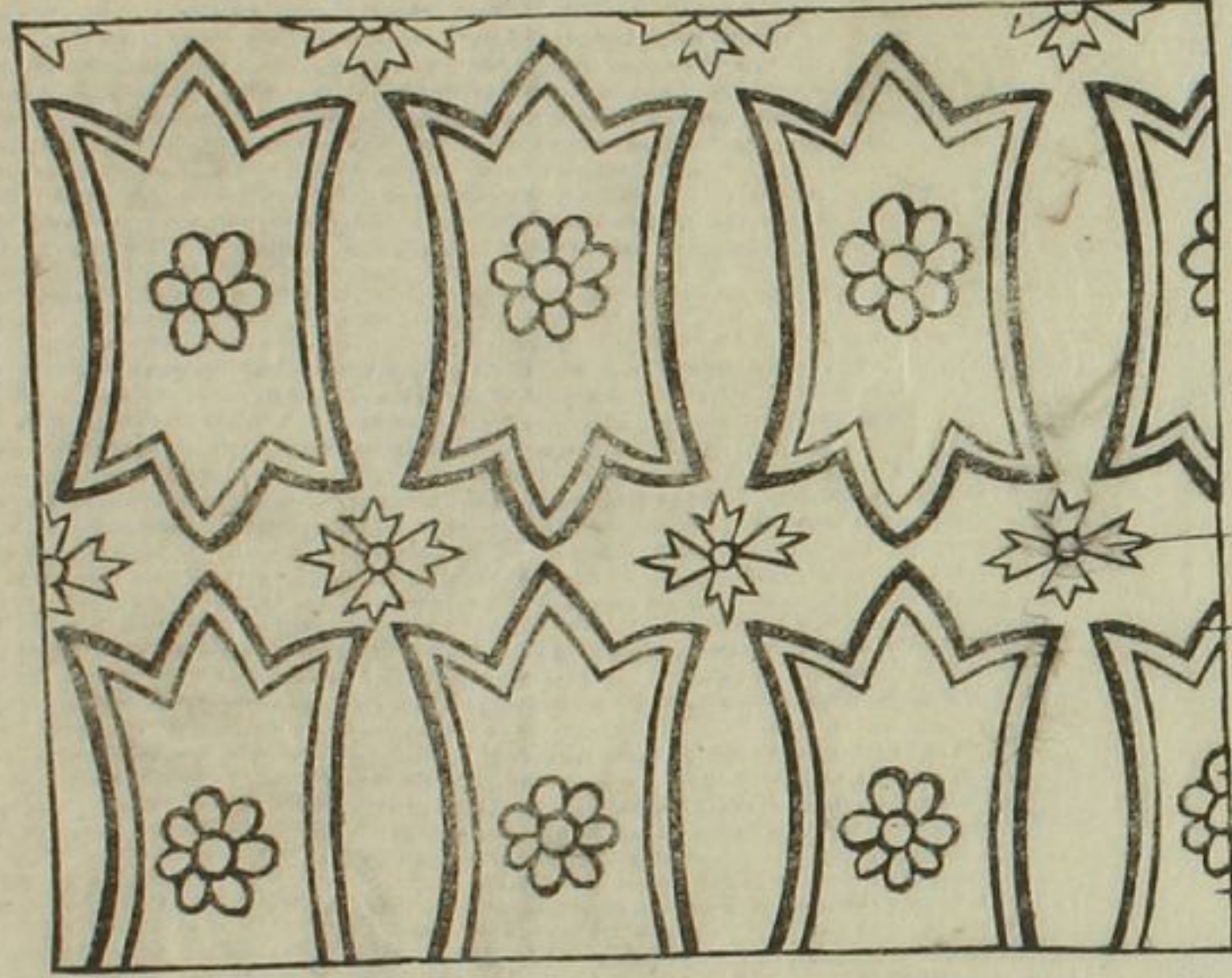
イトシモ

スツシフ

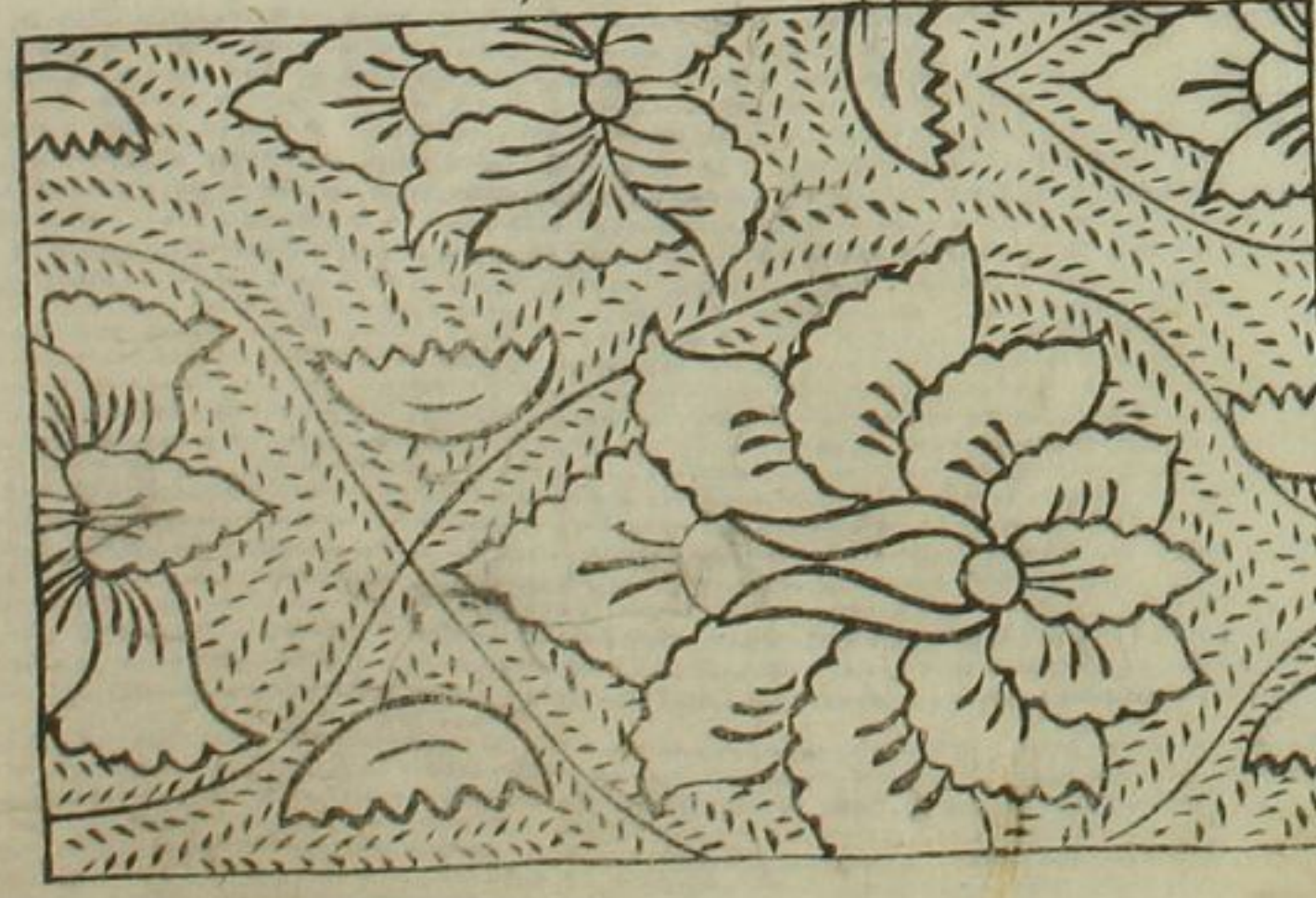
ヲノコシテ

赤中ノ

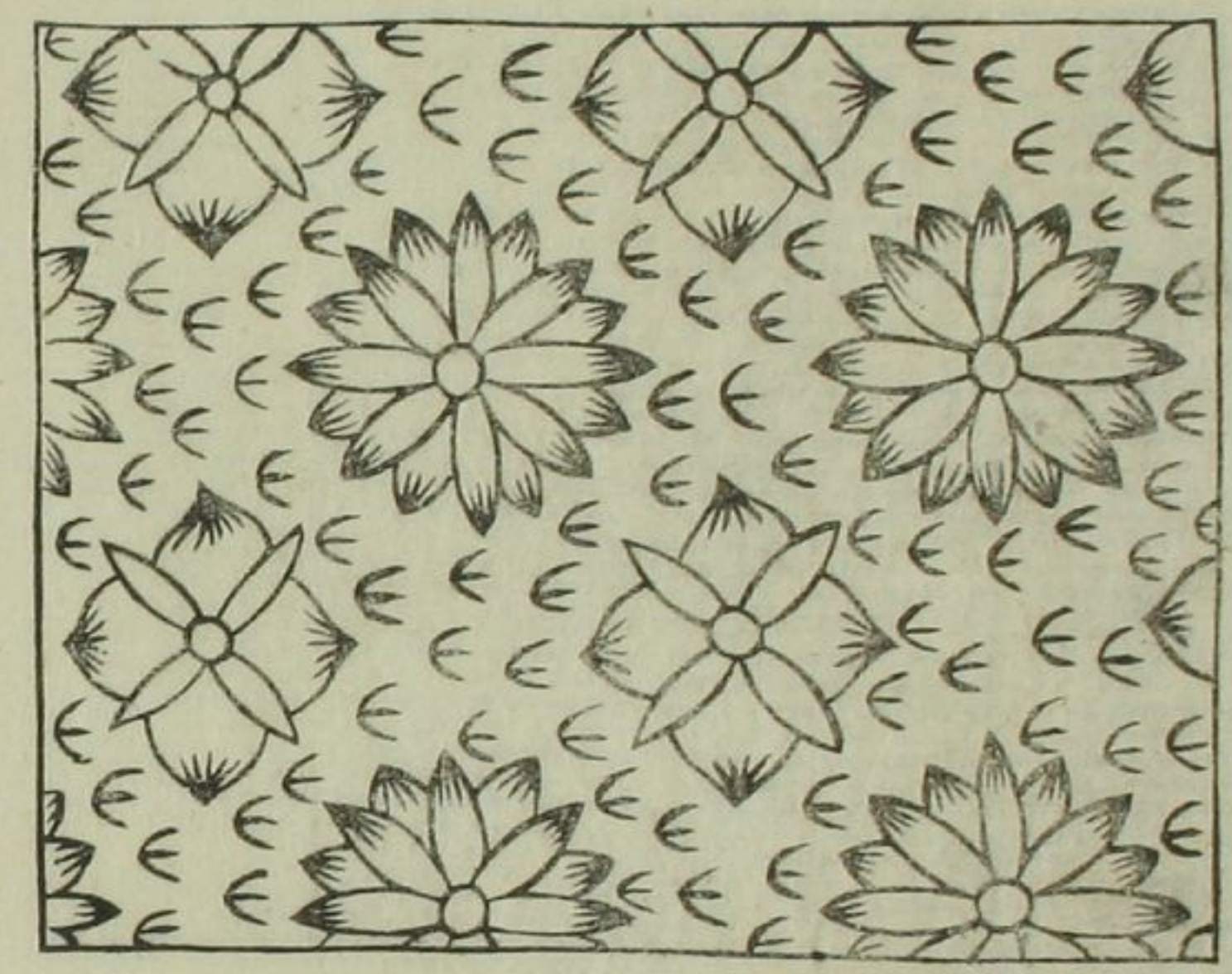
シハイン



カントウ也



千モシサラサ 朝鮮 蠻國アリ



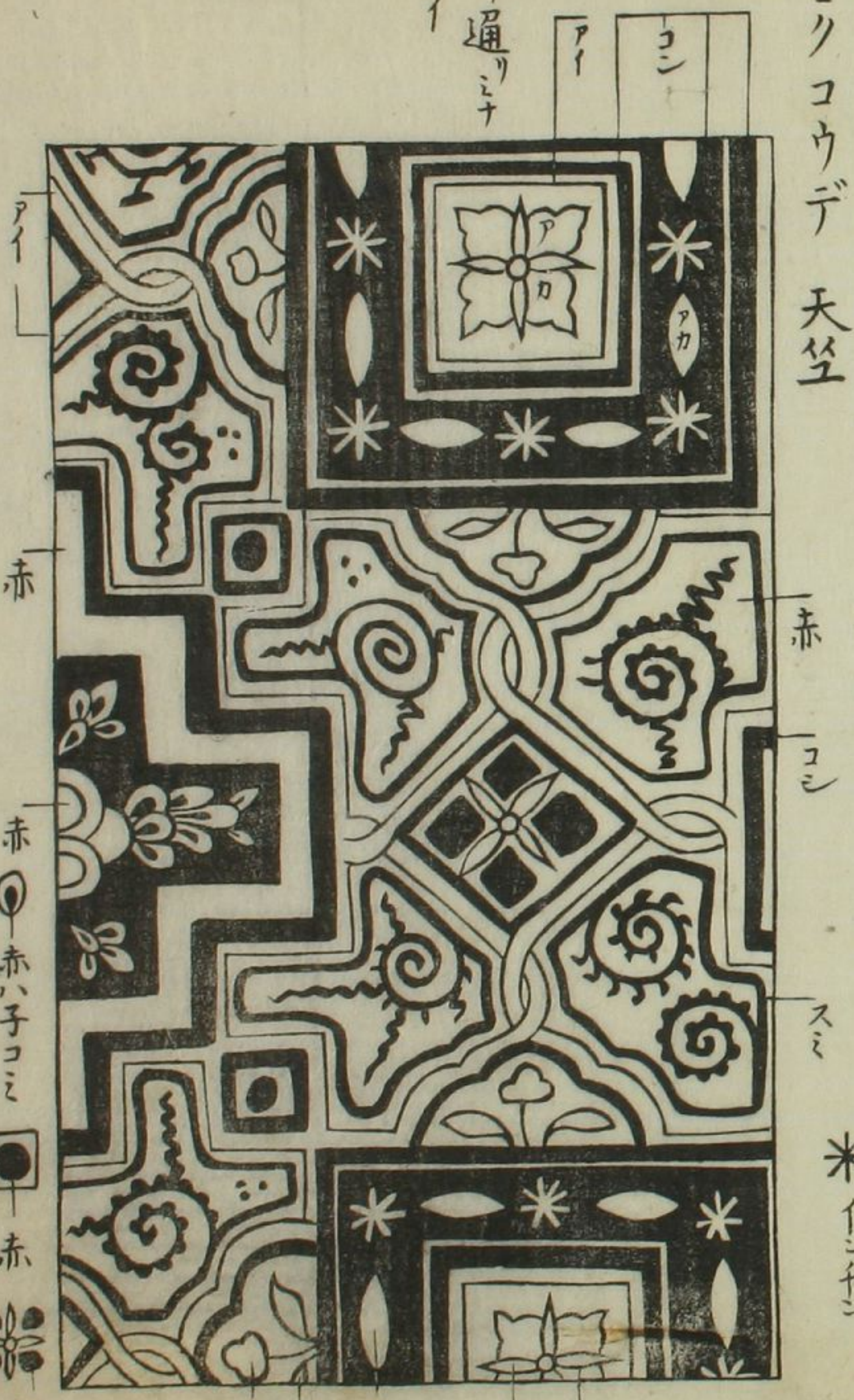
地白  
スミニテ  
形ニテ  
スリコミ  
下品也

ジャガタラサラサ シヤガタラシマ也



シヨクコウデ 天竺

ア  
子  
通  
リ  
ミ  
ナ  
ア  
イ



便覽

赤

赤  
赤  
ハ  
子  
コ  
ミ

赤

赤

赤

赤

赤

ア

赤

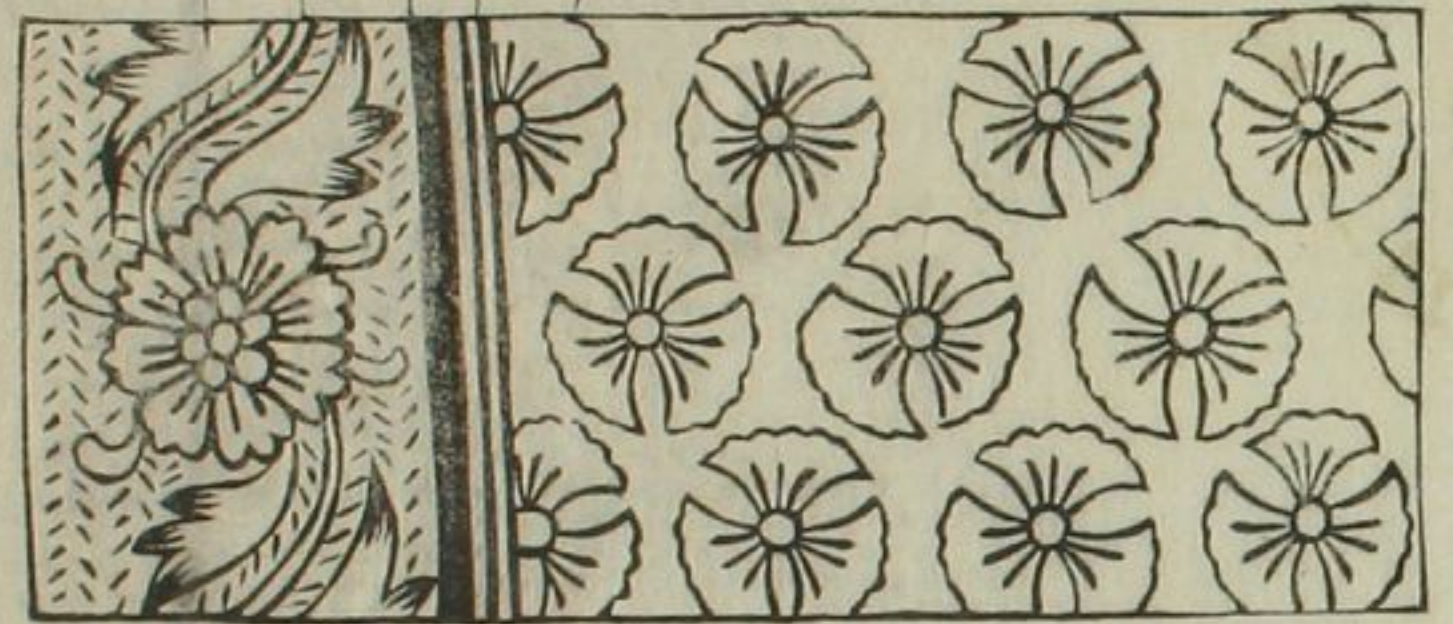
赤

コ  
ミ

ス  
ミ

\*  
イ  
ン  
チ  
ン

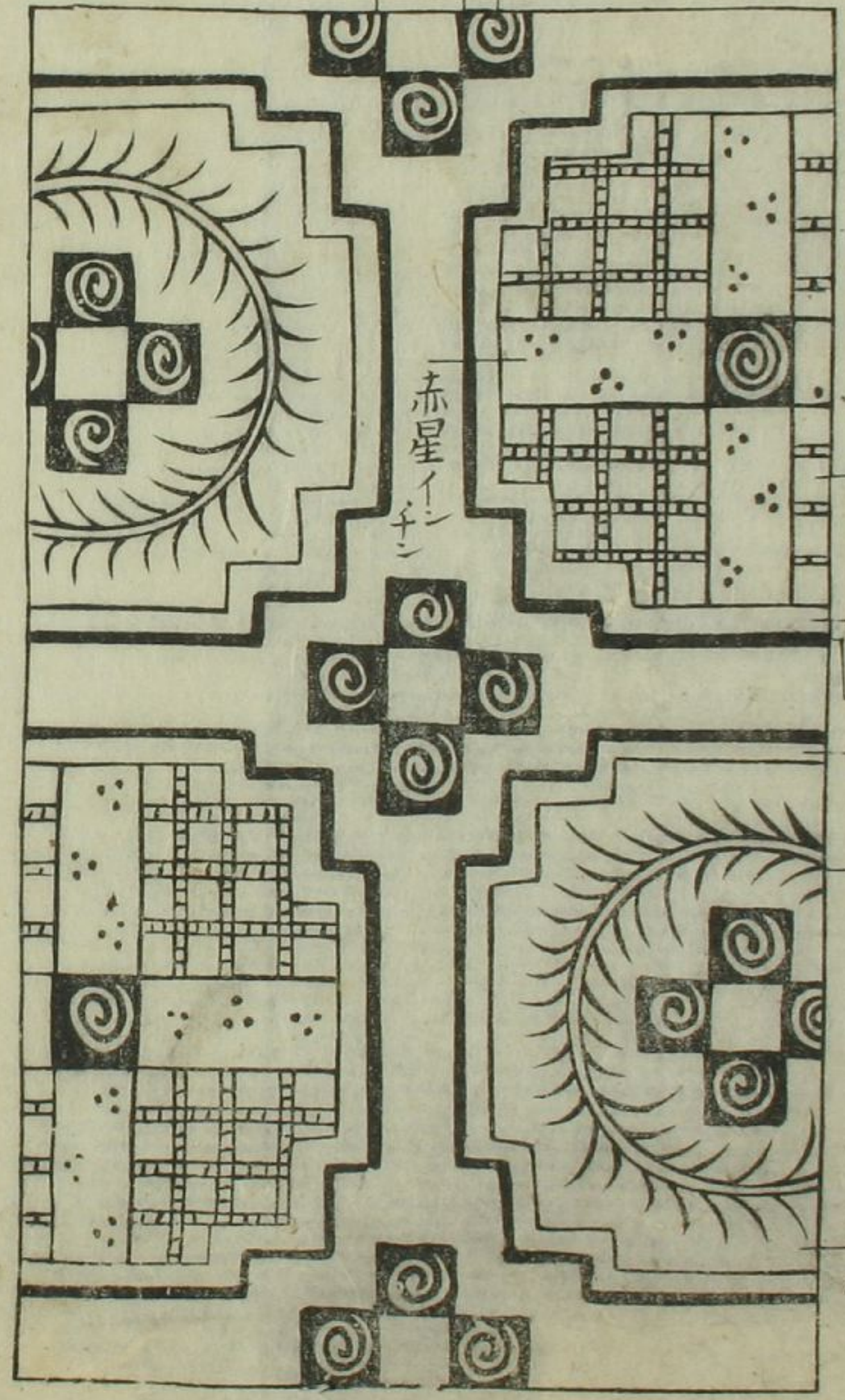
イテウデ 朝セン  
 地アサギ  
 赤モアリ  
 イテウノ  
 ハーマイ  
 赤ーマイ  
 艸ーマイ  
 キ星白  
 赤ノカキワリ  
 スミ  
 アカ  
 ヤイロ  
 コマアイ  
 花モ、  
 イロ花赤ノカキワリ



枕手 同上  
 地アイ  
 スミカギ  
 赤  
 アイ  
 赤  
 赤



ゴウテンジヤウ 天竺也  
 地紅黒  
 コシ  
 イシチ  
 イシチ  
 ノ下々  
 アイ  
 如此モ  
 同  
 尺



赤  
 コシ  
 アイ  
 イシチ  
 赤

小鳥出トモ虫手トモ  
 スミカキ  
 ギクアイ  
 葉アイニ  
 キガシ  
 花ハ赤ニテ  
 リモイロト  
 シモイロ  
 シイニチ  
 ン鳥アイ



唐  
 リウキウ  
 テウセシ  
 金サラサモアリ

モイロ  
 アイ  
 赤

モイロ  
 ハミサキ

赤  
 サキ  
 赤

ハミサキ  
 赤

ハミサキ

カシコテ  
 朝セシ  
 地黒  
 コフアイ



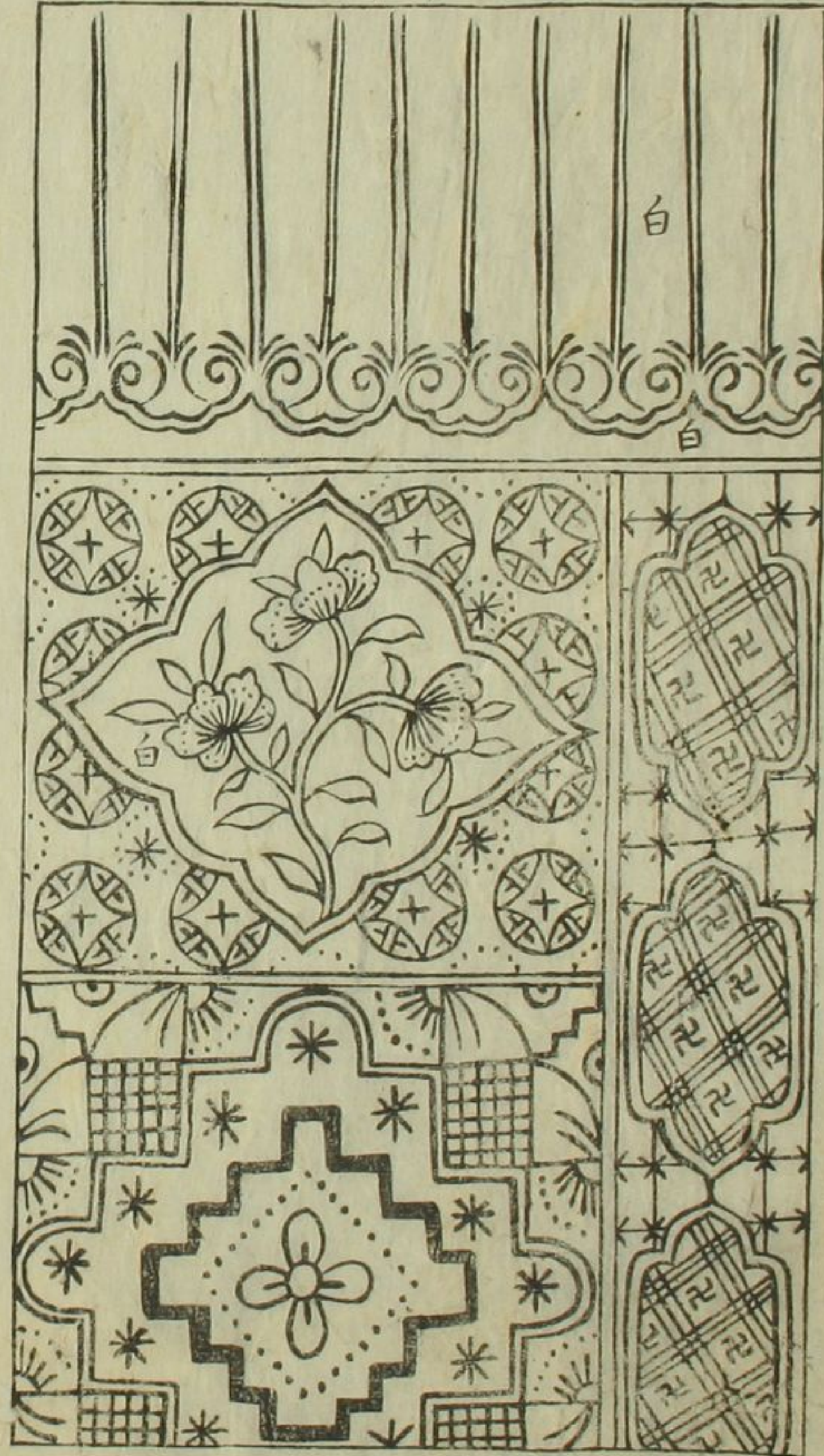
アイ  
 赤

イモ  
 赤  
 口

傾  
 鳥

七  
 ナ

コロンサラサ  
 物アト也  
 イン子  
 ニテ此通  
 ナカキア  
 イニテソ  
 メル洗チ  
 トシテチ  
 茶チカケ  
 ル



コロンサラサ  
 クロホウトモ云  
 南京ニ云ハアヤマリカ

俵呂

十

銀花布 唐也

スミカキ  
 イロナシ  
 茶地也  
 又イロ有  
 トキハ  
 ムラサキ  
 モイロ  
 赤  
 ウスラサキ  
 アイ  
 草イロ  
 是ハアワ  
 巴テ用  
 銀フ子  
 ク、リヲカク小シハカ、ズ



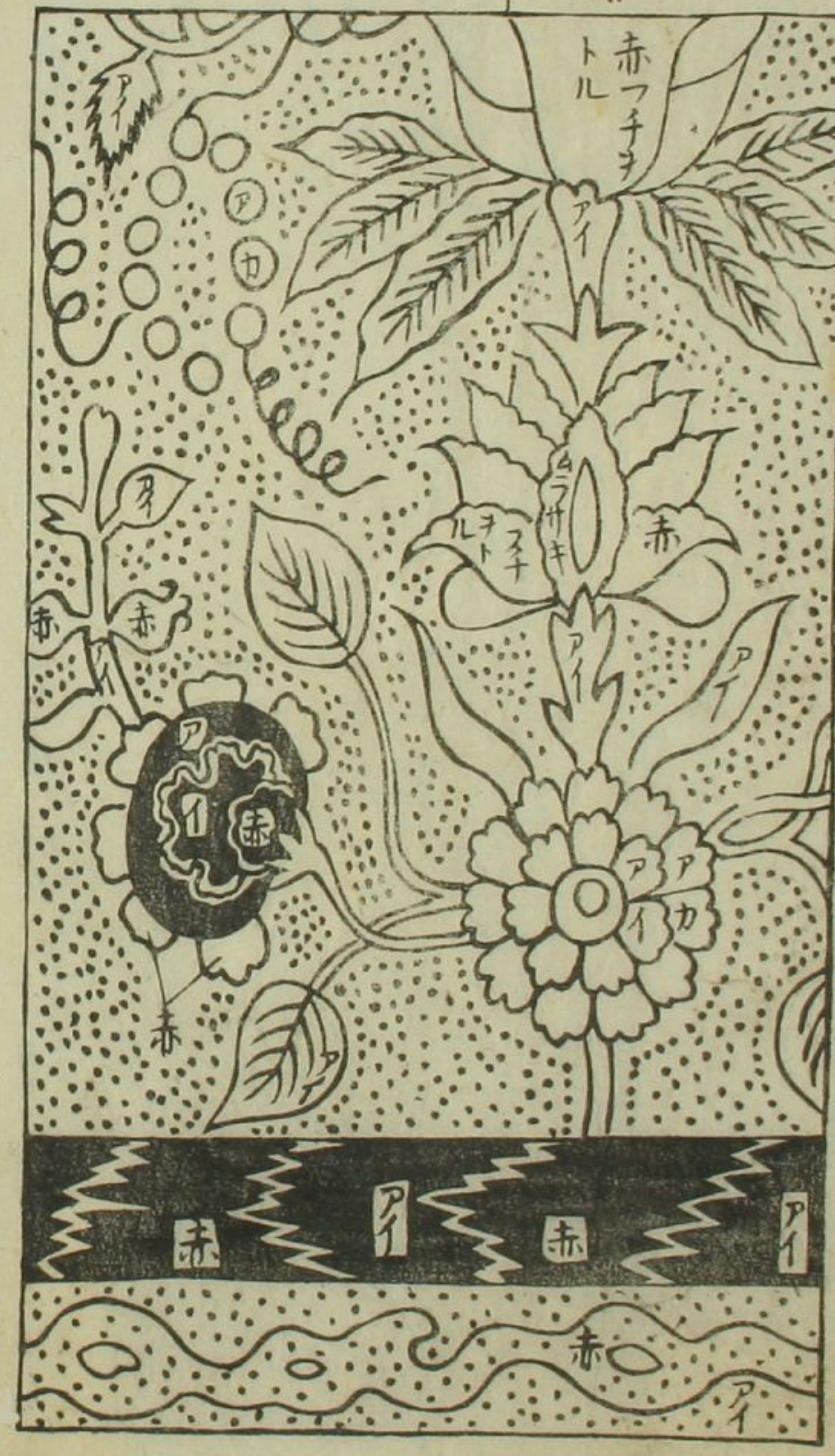
更

二



アラレデ バンコク多シ

スミカキ  
葉トシク  
ミナアイ  
アラレ赤  
ノ星ナリ  
赤

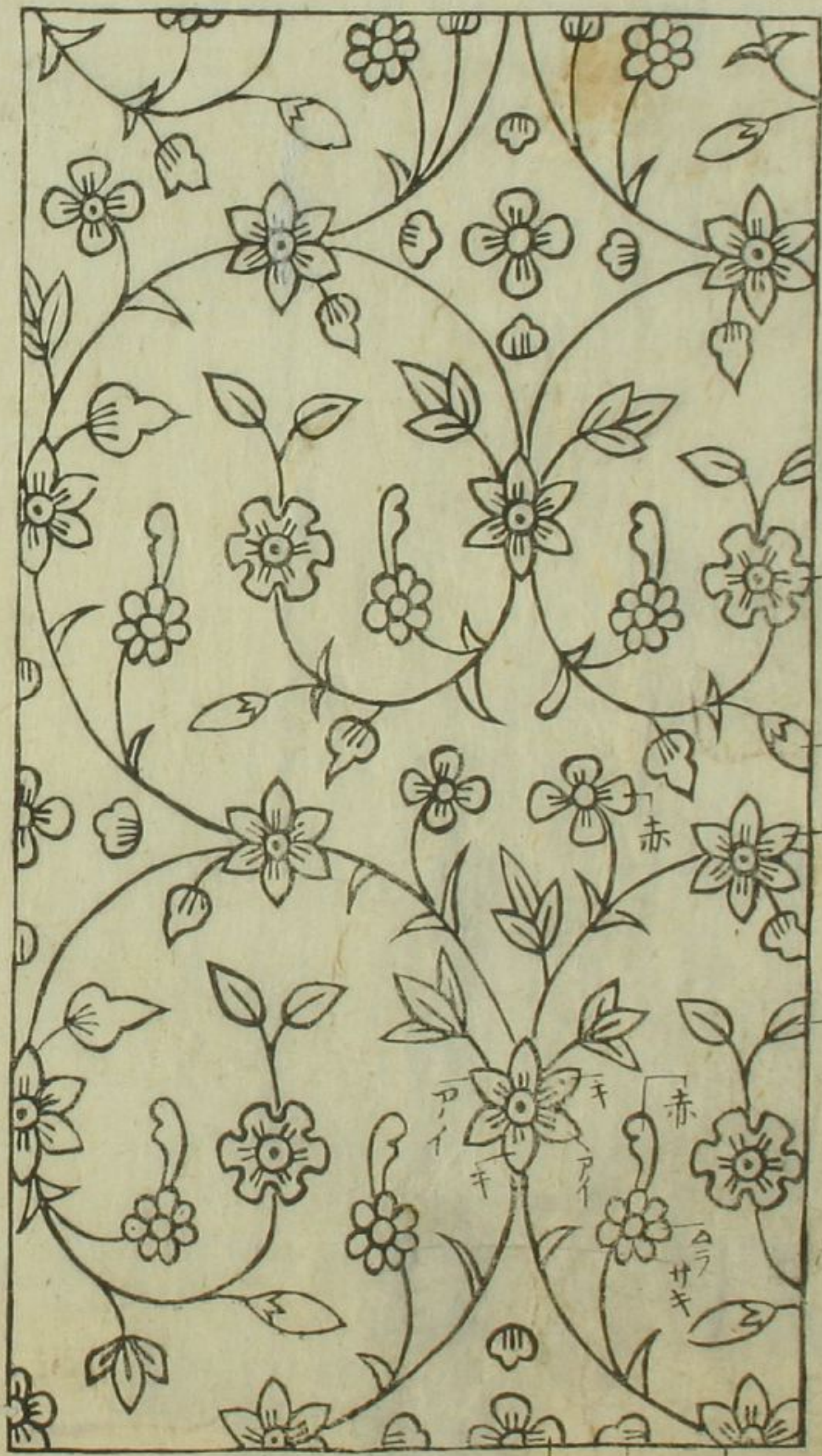


真ノトリデ インコテ 唐也

スミカキ  
面ニ赤  
モ、イロ  
同赤テ  
星ナリ  
羽同此  
赤ニテス  
ナカリイロ  
ハツギイロ  
トクアイダ  
ホカシ  
ムツカシキ  
エトリ也  
モ、アイ  
ムツカシキ  
赤



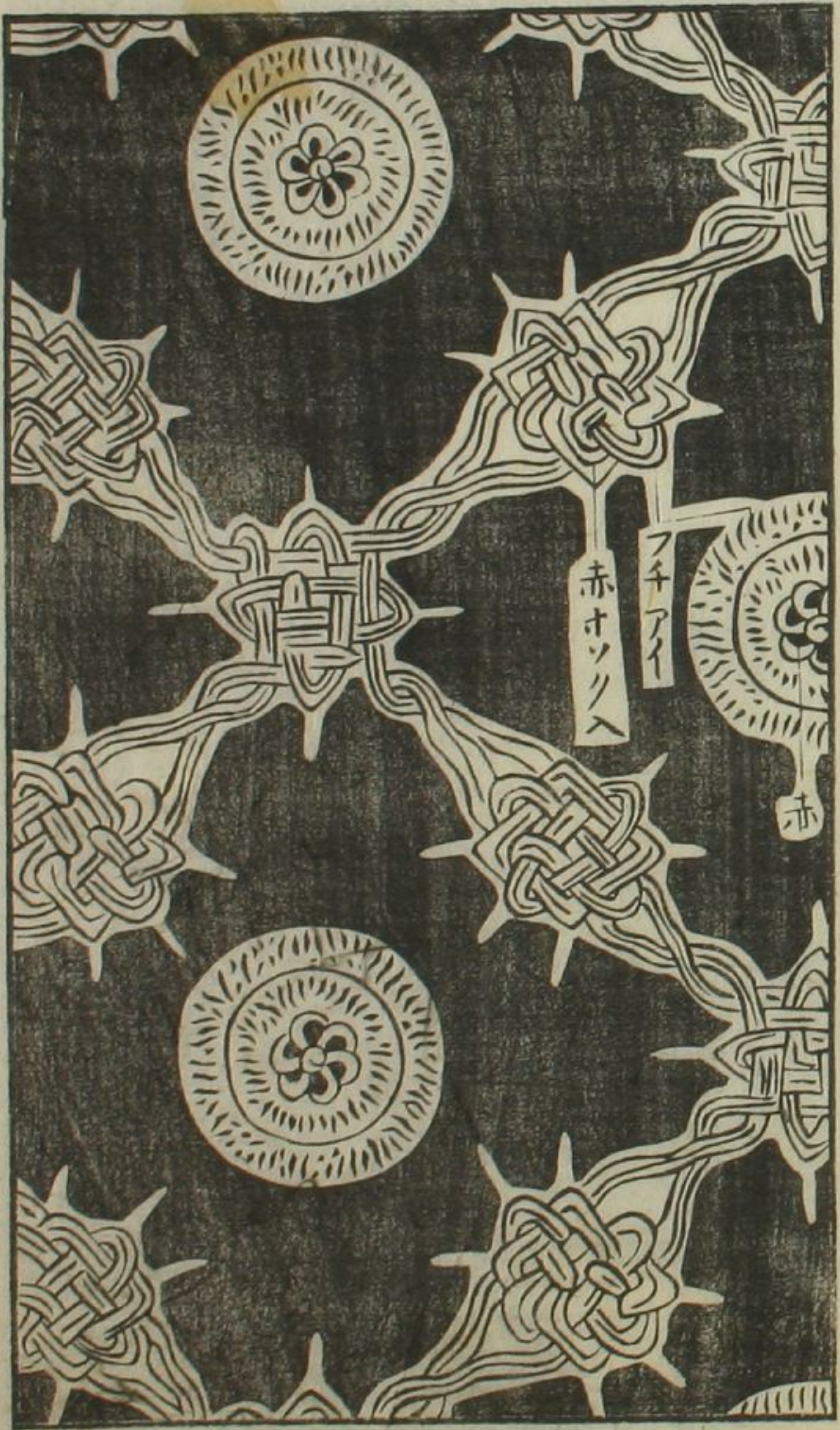
笹ヅルデ金サササ 唐也  
スミカキ



赤サ七

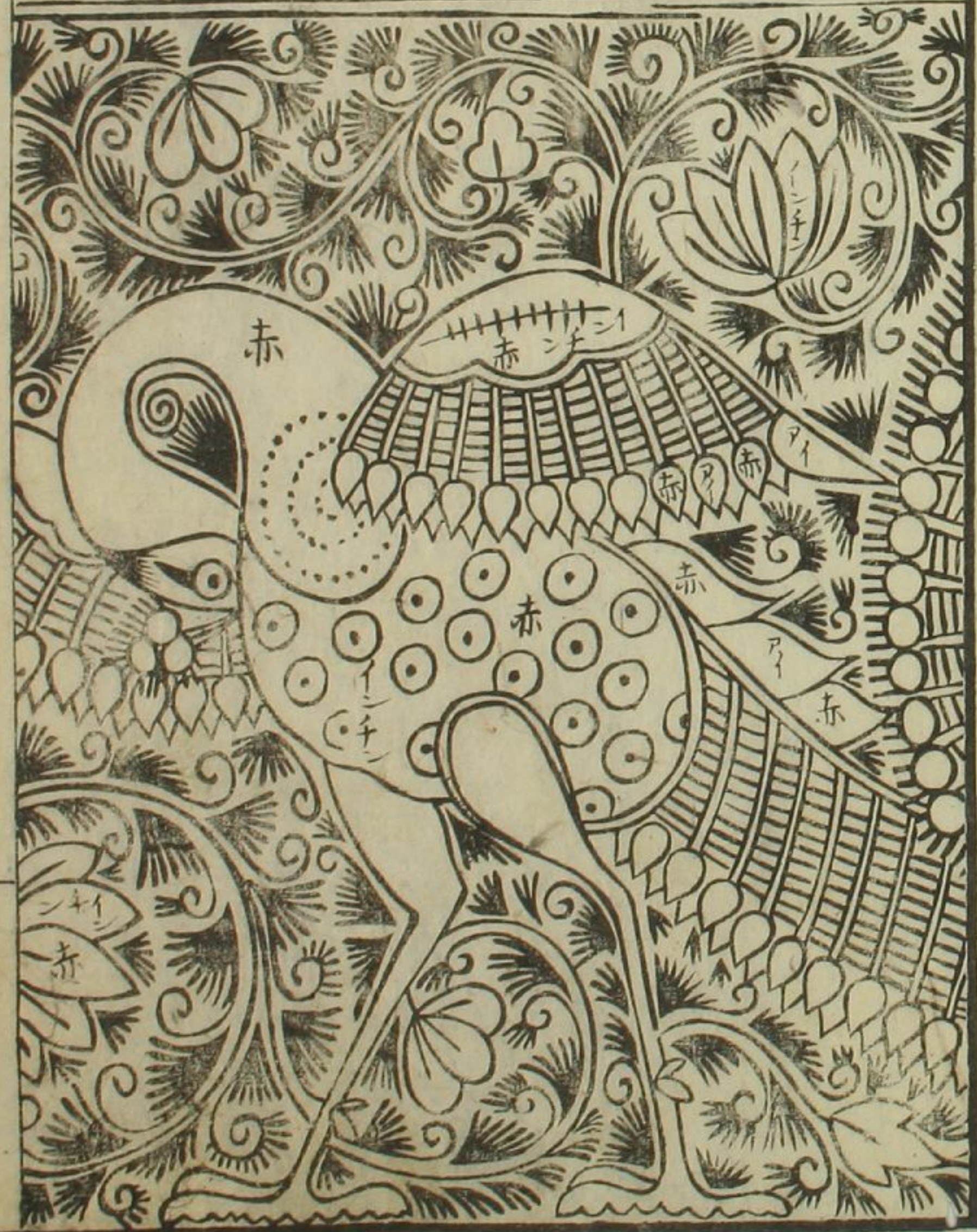
ウニヤ手 唐テウセン

地黒  
アイニテ  
カキ中エ  
赤オサス



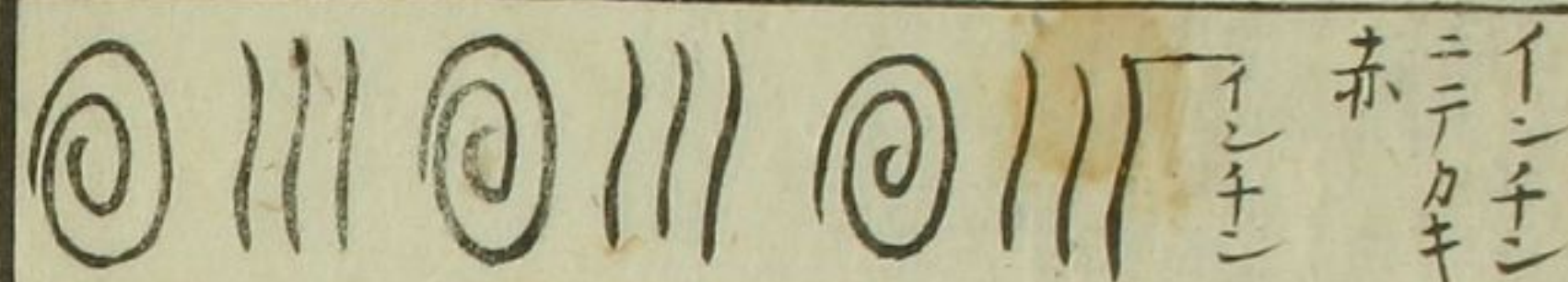
人形手  
 蠻也  
 スミカキ  
 上下ノタン  
 ノモヨウ  
 ミナインイ  
 ニニノカキ  
 生エニシチ  
 カケル也  
 地ノチマシ  
 ハミナ赤





東

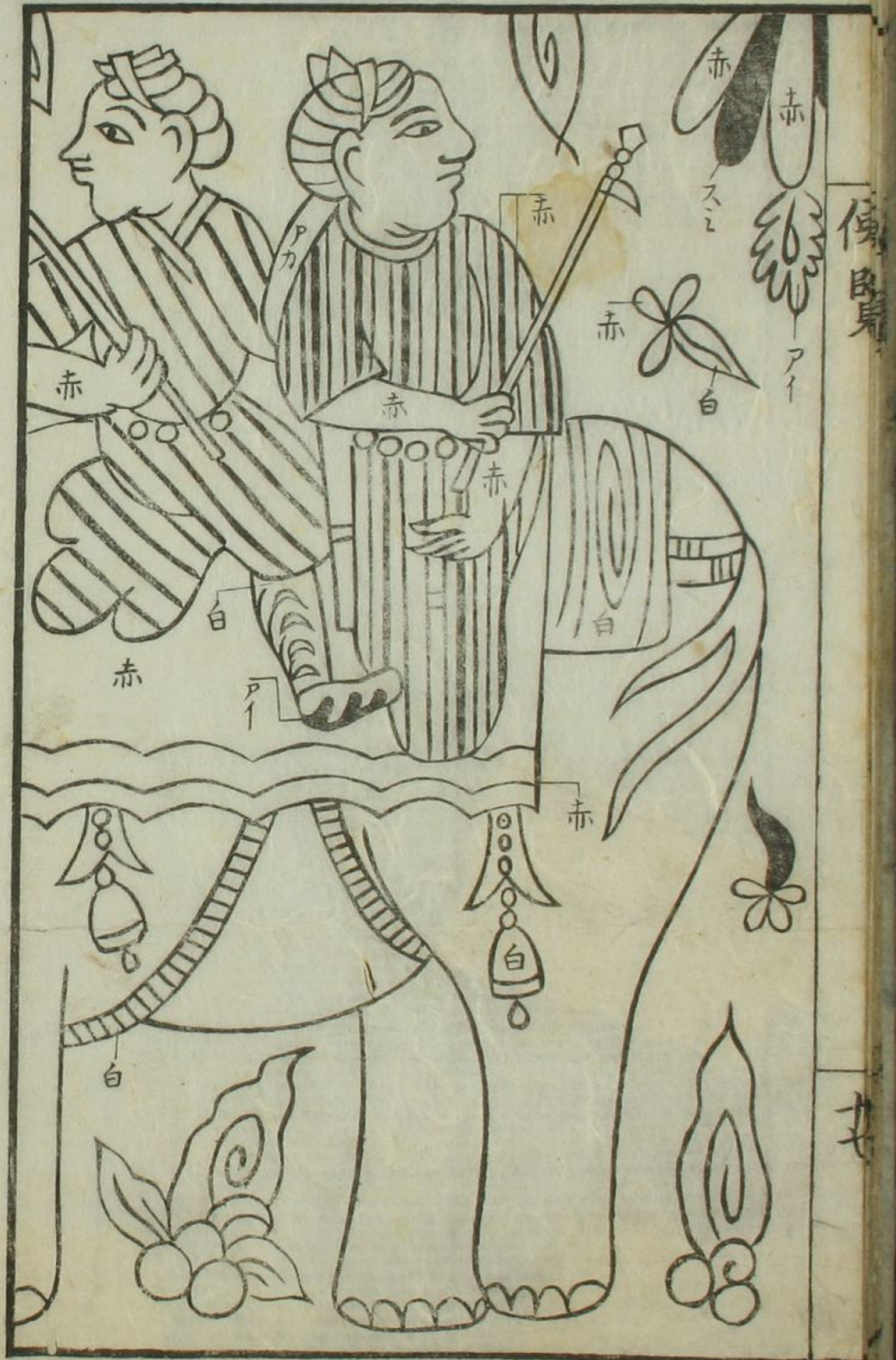
孔雀手  
 スミカキ  
 玉ハワキ  
 カイニライ  
 ト赤ナリ  
 公子ノ立テ  
 スジモ赤  
 トアイト  
 カハル  
 ナリノソ  
 ホカハミナ  
 スミナリ



何

廿五







髪さしし銀さし仕立

根さしし下画を書きよと正平筆しおわらぬと  
 ぐく水と指は落して一通下画の上をかき二通め  
 おくして多髪も時銀泥をさき膠を削いで  
 こき一通中なりしとある時ハ二通銀をうける  
 ちり髪を板の上と並粘牙とさうくぬれん  
 へそと出さ事首のふく

正平筆ハ緋を結の夕と堂店名

藍蠟

多くあまきよて書しはく志まといふは糸のまめらふ  
 とも糸の白をまきまきと為膠にてとまきまめら  
 ぶのまきまき糸はよても仕上も糸のまきまき  
 下地まき糸のまきまき糸のまきまきとして水にて  
 洗ひ干して後正平量も肉をも書なり指の  
 針糸の糸編りなり

藍蠟

糸於大坂より下たるよと糸の白はくはく  
 洗ひ糸の水をまきまきと為膠にてとまきまめら  
 冬に二日斗うくおどませてよ水をとより用  
 糸のまきまき糸のまきまき糸のまきまき  
 糸の具どめらひ糸のまきまき糸のまきまき  
 水ハ糸於の水ハ糸のまきまき糸のまきまき



谷中之藤遠乃水く合なり

雌黄

志如ハ四よてくはるせめあんと加へそ  
きふなり是ハ黄をを書時斗なり

字 色

藍水中を雌黄と摺りて多きか  
藍の川位なり又ハ中内へお山原のせと

加へる事も何れも是ハ色をよくみ教なり  
又古流りなるく字をよく書を加へ又ハ  
志うめんいとく是ハ黄も何れも是ハ今云  
眉茶の中なるをなり

此系

むらさけハ黄とせうめんーと加へて用なり  
を黄たう川がうーは分濃くーを色なり

薄く洗った後を正薄くなるまでたたり又  
薄うすく赤のうすい色も何り二色を一投の  
彩をうけたりなり

茶色

是は志薄きよきん——ついで茶をこし入  
るるきんをこしこしついでんをこしなり  
ついでんの水が薄く茶をこしなり ついでん杯

キ

きん時きんついでんといはす用由

紺

下々と濃き藍をこしてぬ里かき起しぬ時又うすに  
こしてぬるなりなり かに起しぬ時又合をこして  
うすにぬる又こしても藍をこしてぬるなり

黒

松棉子 五五分 石板皮 五五分 五倍子 四五分



梅をきき茶碗に入らしてけりおし多く入す時年  
 までちちを破き時よく刷をいけて又よく振  
 てかけと水おしつきあふかあんとを二三度引  
 け後にかけまたつゆりと取すもよくあつたり  
 是はもうめたんとぬきる時い急のぐ水を流して出る  
 たりあふゆりあふりけりあつたり

インケン

唐土やじん<sup>ニ</sup>細うゆ<sup>ニ</sup>水おし入て瓶おけにいける  
 たり上の水をそりてよくあふんをゆびとてあつ  
 つゆ<sup>ニ</sup>焼めうじんまよ上の汁摺といふやんぬ  
 粉五と調合して福をりの出を程かきまきり用  
 物して後の息をけたてを水おし一はと一遍  
 湯こまか<sup>ニ</sup>瓶に入<sup>ニ</sup>蒸<sup>ニ</sup>別<sup>ニ</sup>る京都加茂川  
 柳の水なくえ茶碗を古き樽までえ茶碗<sup>ニ</sup>

新さへ志願出て、何、さななり

重巾下地は縁

重さ一丈を尺巾四尺四五寸を、重さ幅と云  
是、大豆五夕と申す、つけて夏は、秋冬は、一日一  
月、一つおた摺練、よく、重水二合程入、本  
の、袋、入、く、く、志願、重、さ、か、す、か、く、か、ね、程、一、と  
、重、巾、の、表、より、一、遍、引、き、下、て、表、より

二層、引、各、く、乾、して、引、なり、重、後、か、ん、ん、る  
、と、指、さ、ぬ、と、付、て、重、さ、の、重、り、と、一、と、重、巾、の  
表、に、落、し、一、ん、時、露、の、玉、と、つ、り、摺、して、地、に  
、重、み、ぬ、い、ふ、れ、う、ん、なり、又、重、さ、の、重、さ、の、重、さ、が  
、さ、な、なり、又、一、遍、お、と、り、べ、一、重、後、は、重、巾、と  
、重、の、牙、と、重、さ、り、く、摺、て、重、さ、なり

華布出處地名

朝鮮 南京 北京 幹唐

シヤム 天竺 崑崙 ジャガタフ

琉球 韃靼 黑防 阿蘭陀

安南 黑船渡

明朝 大清

夫畫華布者古未無師傳矣但各會  
意匠以施五彩耳雖然非師古則不  
得也譬言如作方圓必取法於規矩猶  
看巧拙乃其中亦非爾力也至稱其  
神品則未易一朝而至焉若夫禽獸

蟲魚草木之形象第邦殊異焉畫者  
 不可不辨也若謬以鷄林之花與和  
 蘭之鳥雜作一匹華布則非不五彩  
 燦目也然柰識者之笑何何則無法  
 故也平嘗有憂之因就所見記國名物  
 產如左不敢示哲匠聊便彼童蒙云爾

書更紗下地仕極事

更紗をい切れ書しと思ふは極とのまの生温と  
 蒸籠籠小うけてぬへしと取らるる蒸籠籠は  
 中へ入るの蒸籠へ生温と入る蒸籠籠は清水の如き  
 中へ入る蒸籠籠へ入れぬ之又蒸籠籠の如き河川に  
 大さの蒸籠籠と二つぬを一つの蒸籠籠に生温と入  
 火種うけてそ蒸籠小右の蒸籠籠すまはとの蒸籠籠  
 蒸籠籠のうらむるをれと度く眼の蒸籠籠は

膠漿ニ合がのいれるなりを書しとあけて天  
 氣のよき朝小板の金布と塗り板の上小を古の  
 生漆と刷毛で二三度もひく一を度とまらな  
 干とてのります

生膠漿ニ合す板のす

生膠ニ合す二まりに一を流す也入水として  
 一を度もひく一を度とまらな  
 干とてのります

小板として一を流す也入水として  
 一を度もひく一を度とまらな  
 干とてのります

藍ニ合す板のす

藍ニ合す二まりに一を流す也入水として  
 一を度もひく一を度とまらな  
 干とてのります



解く。と。も。も。一。を。り。し。と。も。の。水。膠。と。し。入  
 て。ま。り。る。を。藍。の。色。に。あ。し。し。て。物。の。一。部  
 か。き。川。の。水。と。乳。を。こ。し。て。何。れ。の。色。も。光。彩  
 と。も。あ。ら。ず。又。新。法。の。更。幼。小。室。青。の。色。を  
 何。れ。の。色。に。レ。イ。ス。ブ。ア。ウ。ヤ。を。あ。け。て  
 何。れ。の。色。に。あ。り。し。と。取。捨。す。る。者。は。神。田。小。伝  
 平。次。の。い。し。の。色。一。向。上。の。結。の。具。屋。を。あ。ら。わ  
 せ。し。の。色。の。ま。し。も。一。解。結。者。は。い。ま。り

モリキ

と。更。一。水。意。の。色。に。種。を。入。れ。て。油。と。し。て  
 水。膠。と。し。て。又。油。と。し。て。天。日。に。干。け。て。入。申。の。時  
 何。れ。の。色。に。入。墨。と。指。し。し。て。あ。ら。わ。せ。し。

雌黄

雌。黄。の。色。を。い。し。の。色。に。あ。し。し。て。物。の。一。部  
 る。ハ。丈。室。より。雌。黄。を。あ。ら。わ。せ。し。の。色。を  
 藍。色。を。入。て。黄。の。色。の。ま。し。も。一。解。結。者。は。い。ま  
 り

思地の事

右様小思き地合の文紙わりとふと二色は重  
 光紙のよとのき有つやのよと書紙の蓋ひて地  
 とよく保てことと思ひて好るやまつとあること  
 書紙の蓋ひてはに蓋ひて地にするや書紙の  
 かのあ

白く染ぬるとは  
 白く染ぬるとは  
 色白くも極細と白く保ぬくは  
 色の紙

と明極るやまは極細とまの指の多くふり物  
 と入都よふといとりのあられ物と極細とま  
 又明極るとよくは極細とまの指の多くふり物  
 右の味と思ふとまの指の多くふり物  
 ろけし焼るやまは極細とまの指の多くふり物  
 又右の味と思ふとまの指の多くふり物  
 ろけし焼るやまは極細とまの指の多くふり物  
 又右の味と思ふとまの指の多くふり物  
 ろけし焼るやまは極細とまの指の多くふり物

文を中やむらと申すくは例小をいふへ  
若明藝のよりすき河らかや、  
か喊してまへ

吹繪仕掛は

この繪文のりくは法ゆれども印五風  
し、  
又細き物と書、  
りきさるいして

も吹へー又こまうく吹阿ハ糖とや免小糸と少  
みて吹ゆる

合更紗の事

合文紗派の糸の粗ハ何ふても換紙と書は  
文紗と陰物(糸と巾)にして法業より音のり  
と川日にぬけて能干よりある何角ふて  
摺合と室と糸(水膠)ふてとさー  
改粉

小一通書乾さし時水膠とていづに  
 と又一通書乾さし母合とていづに  
 らくし合とていづに母合とていづに  
 に所外光彩のまはるはるはるのまはる

更紙書棟之事

書さし紙の地合ハ極との合布にりる下又細小  
 も書さし紙の地合ハ極との合布にりる下又細小  
 大拍ふら書文細地のまはるはるのまはる

更紙書棟之事  
 書さし紙の地合ハ極との合布にりる下又細小  
 も書さし紙の地合ハ極との合布にりる下又細小  
 大拍ふら書文細地のまはるはるのまはる

賢識の如く、是れは、  
意を定めて、  
か減つて、  
六生、  
大に遠る物、  
といふ、  
保心、  
かくも、  
賢識の如く、  
意を定めて、  
か減つて、  
六生、  
大に遠る物、  
といふ、  
保心、  
かくも、

沈んで、  
身法、  
地、  
及、  
右、  
も、

更

と流し紙のほろあまどろける文紙とすべのよ板の  
とにのせし紙とせりして二こをばも管ふて指紙  
川一面に切れの素紙とせりとお島に天白して干  
べし暫しと鹽又水と入はし光彩とせりし紙  
も紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙  
素のなとせりし紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙  
素のなとせりし紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙  
素のなとせりし紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙

右義智の事



右紙の文紙と書紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙  
紙つみ焼火のうに法をば身終とくする  
るも又急に古び法紙にハ松新と焼紙  
煉と取切れ又包れ入るもく紙里とせりし紙  
ふて文紙と二こをばも深干とせりし紙とせりし紙  
とせりし紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙  
板の上のせりし紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙  
紙と切れとせりし紙とせりし紙とせりし紙とせりし紙

切れとぬ下穿くわすふつけはむ代しろひの文紙ふみと云々

急いそ書かき松まつのこと

常つね書かきし色いろけいけいははししてて書かけけババ年とし水みづにに漬ひきき  
洗すすせせももああららふふのの子こーー又また墨すみ籠かごののをを何なに處ところ  
洗すすふふてて毛け面めん側わきあるある何なにとと和わのの法ほう有ありり白しろ豆まめをを  
かかららししとと水みづととおおしし入いてて破やぶつつ子こーー切きれれ包つつ  
てて紙かみおおしし金かね布ぬい紙かみ板いの上うへとと墨すみをを吐はききてて右みぎのの汁じゅう  
とと洗すすひひしし平ひら書かきももああららふふ文ぶんののかかりりおおままととりりする

何なに明み礬わんととここららしし火ひににけけららせせてて換かへへれれの上うへとと筆ふで小せう  
てて書かききしし腦のう筋きんちちちちととるる物もの也なりんん得とべいーー  
そそのとと又また明み礬わんををししてて紙かみ一ひと枚まいのの度どもも洗すすははららすす  
かかららししとと大おおききななるる筋きんもも書かききとと道みち書かききとと  
ああららししととわわせせとと口くち傳でんのの筆ふで紙かみ小せう迷まよぐぐとと  
書かきき人のひと工くわ風ふう有ありりべいーー

蓬萊山人 睡榻撰  天 

更 二二

天明四年甲辰

御書物師

江戸日本橋通壹町目

出雲寺和泉椽

京都三條通高倉東<sub>江</sub>入

同店



